

2018（平成30）年度事業報告書

学校法人 湘南ふれあい学園

I 学校法人湘南ふれあい学園の概要

■ 建学の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」

■ 法人及び設置校の沿革

年 月		沿革
平成 6 年	1 月	準学校法人 湘南ふれあい学園設置
	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校創立
平成 10 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校創立
平成 12 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科設置
平成 13 年	1 月	学校法人横浜アカデミーより 2 幼稚園、2 専門学校、1 予備校を継承 湘南ふれあい学園を準学校法人から学校法人へ変更
平成 14 年	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミー日本語研修科設置
平成 16 年	4 月	下田看護専門学校創立 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー美容学科・診療情報管理学科・臨床工学学科設置
平成 17 年	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミーをふれあい横浜専門学校に校名変更
平成 18 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉学科を精神社会福祉学科へ名称変更 ふれあい横浜専門学校美容学科入学定員変更、総合電子専門学校学科再編（設置及び変更）
平成 20 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 理学療法学科入学定員変更
平成 21 年	4 月	総合電子専門学校 学科再編（名称変更等）
平成 22 年	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校を茅ヶ崎看護専門学校に校名変更及び看護学科入学定員変更
平成 23 年	4 月	ふれあい横浜専門学校 観光学科入学定員変更 総合電子専門学校 研究科設置
平成 24 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 言語聴覚学科（2 年制）設置及び作業療法学科入学定員変更 総合電子専門学校 医療マネジメント科設置及び情報デザイン科入学定員変更
	6 月	湘南医療大学（仮称）大学設立準備室設置
平成 26 年	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 南湖校舎移転 湘南医療大学（仮称）設置認可申請書提出
	4 月	学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転 総合電子専門学校を医療ビジネス観光情報専門学校に校名変更及び学科再編
	10 月	湘南医療大学 設置認可 学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
平成 27 年	4 月	湘南医療大学開学 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転
平成 28 年	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修設置
平成 29 年	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 30 名→60 名に変更
	4 月	みどり幼稚園を幼保連携型認定こども園みどり幼稚園に改組
平成 30 年	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 60 名→90 名に変更
	3 月	医療ビジネス観光情報専門学校 情報システム学科 廃科 医療ビジネス観光情報専門学校 工業専門課程 廃止
	4 月	湘南医療大学 臨床医学研究所開設
	7 月	医療ビジネス観光情報専門学校 介護福祉学科設置及びこれに伴う校名変更認可
	11 月	湘南医療大学 大学院（保健医療学研究科）設置認可及びこれに伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可 医療ビジネス観光情報専門学校 介護福祉学科（新課程）設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
平成 31 年	2 月	湘南医療大学薬学部（仮称・設置構想中）新設のための寄附活動のための寄附行為変更認可

設置する学校等の概要

【設置する学校】(2018年5月1日現在)

学校名	学部・学科・専攻等(入学定員)	開設年度
湘南医療大学 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号	看護学科(80)	平成27年度
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)(40)	
	リハビリテーション学科 (作業療法学専攻)(40)	
茅ヶ崎看護専門学校 神奈川県茅ヶ崎市今宿390番地	看護学科(80)	平成6年度
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 神奈川県茅ヶ崎市南湖1丁目6番11号	理学療法学科(70)	平成10年度
	作業療法学科(30)	
	言語聴覚学科(35)	
	付帯教育事業 社会福祉専攻科(80) 介護福祉士実務者研修(30)	
下田看護専門学校 静岡県下田市柿崎289番地	看護学科(40)	平成16年度
医療ビジネス観光情報専門学校 神奈川県相模原市南区上鶴間本町3丁目18番27号	医療ビジネス学科(40)	昭和61年度
	観光学科(40)	
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園 神奈川県横浜市戸塚区汲沢2丁目26番14号	認定こども園(218)	平成29年度

【設置する学校等の在籍者数】(2018年5月1日現在)

[湘南医療大学] 収容定員660

学部・学科・専攻	入学定員	編入学定員	入学者数	2018年度在籍者数				2018年度卒業生	
				1年生	2年生	3年生	4年生		
保健医療学部	看護学科	80	10	85	85	101	79	95	82
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	40	0	43	43	46	41	41	36
	リハビリテーション学科 (作業療法学専攻)	40	0	43	43	40	39	37	26

[茅ヶ崎看護専門学校] 収容定員240

学科	入学定員	入学者数	2018年度在籍者数			2018年度卒業生
			1年生	2年生	3年生	
看護学科	80	82	84	81	71	62

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校] 収容定員470

学科・専攻科・研修	入学定員	入学者数	2018年度在籍者数				2018年度 卒業生
			1年生	2年生	3年生	4年生	
理学療法学科	70	71	77	62	77	57	53
作業療法学科	30	21	21	26	21	18	17
言語聴覚学科	35	35	35	34			33
社会福祉専攻科*	80	59	59	68			45
介護福祉士実務者研修*	30	19	38				51

※社会福祉専攻科、介護福祉士実務者研修は通信課程

[下田看護専門学校] 収容定員120

学科	入学定員	入学者数	2018年度在籍者数			2018年度 卒業生
			1年生	2年生	3年生	
看護学科	40	40	40	39	39	32

[旧医療ビジネス観光情報専門学校] 収容定員160

学科	入学定員	入学者数	2018年度在籍者数		2018年度 卒業生
			1年生	2年生	
医療ビジネス学科	40	18	19	29	29
観光学科	40	84	85	64	58

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園] 総定員218

認定区分	定員	入園者数	2018年度在籍者数					2018年度 卒園生
			1歳児	2歳児	年少	年中	年長	
1号～3号認定	218	89	7	10	57	57	69	68

【設置する学校等の教職員数】

教職員数（2018年5月1日現在）

学校名	教員		職員※2
	専任※1	兼任	
湘南医療大学	62	57	17
茅ヶ崎看護専門学校	19	68	7
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	22	64	10
下田看護専門学校	8	32	4
旧医療ビジネス観光情報専門学校	9	28	3
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	25	1	4
本部事務局	2	研修センター 20	8

※1 専任には、非常勤契約者を含む ※2 非常勤職員含む

教員内訳

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保健 医療 学部	看護学科		5	7		7		5	1	9	1	1	7	29
	リハビリテ ーション学科	理学療法 学専攻	6		1	2	2		2				11	2
		作業療法 学専攻	3		2	1	3	1		1			8	3
計			14	7	3	10	5	6	3	10	1	1	26	34

なお、各教員の保有学位や業績についてはホームページ上に公開している。

https://www.sums.ac.jp/html/department/nursing_teacher.html

https://www.sums.ac.jp/html/department/pt_teacher.html

https://www.sums.ac.jp/html/department/ot_teacher.html

【法人役員・評議員及び理事会・評議員会の開催状況】

1. 役員・評議員の数（2019年3月31日現在）

役員、評議員	定数	現員
理事	6～8	6
監事	2	2
評議員	13～17	13

2. 役員名簿（理事6名、監事2名 2019年3月31日現在）

理事長	大屋敷 芙志枝	監事	金井 清吉
理事	大屋敷 幸志 ※	監事	竹俣 耕一
理事	熊谷 幸男	※ 外部理事	
理事	柴田 大司		
理事	関 英雄 ※		
理事	有坂 健一 ※		

3. 評議員名簿（評議員13名 2019年3月31日現在）

評議員（1号）	大屋敷 芙志枝	評議員（1号）	小野川 敏子
評議員（3号）	大屋敷 幸志	評議員（1号）	寺本 明
評議員（3号）	熊谷 幸男	評議員（1号）	加藤 修一
評議員（2号）	山戸 真実	評議員（1号）	小林 勝一郎
評議員（3号）	朝日 正俊	評議員（1号）	新海 哲
評議員（3号）	有坂 健一	評議員（1号）	山本 澄子
評議員（1号）	入澤 登美子	1号：職員 2号：卒業生 3号：学識経験者	

4. 2018年度 理事会・評議員会開催状況

	開催回数
理事会	10回
評議員会	10回

II 主要な重点事業報告

1 重点報告の概要

(1) 学校法人湘南ふれあい学園の教育の方向性

ア 学園各校は、教育力を高め、学生の学習力や学力の質保証を達成させると同時に、学力の到達度の確認・点検を行うための活動として、FD活動を実践した。

イ 全体研修会では、建学の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践について、学校法人理事長によるプログラムにより、確認並びに学び直しを行った。(21～30 ページ 研修会プログラム参照)

ウ 本学園は、ふれあいグループ病院施設と連携して、公開講座、保健医療福祉に関わる学園広報活動及びイベントを実施した(31～32 ページ資料)。次年度以降も、地域連携活動に参加し、地域の方々を支援する活動を通して社会貢献を行う。

(2) 湘南医療大学大学院保健医療学研究科 開設

2018年11月文部科学省に大学院保健医療学研究科保健医療学専攻の設置認可を受け、2019年4月開設した。入学定員12名のところ入学者は11名であった。専攻領域は、健康増進・予防領域、心身機能回復領域、助産学領域(助産師国家試験受験資格付与)の3領域で、保健医療学の発展に資する高度専門職業人の養成を行う。

(3) 医療ビジネス観光福祉専門学校に校名変更及び介護福祉学科設置認可

旧医療ビジネス観光情報専門学校は、介護福祉学科の設置認可を受けて2019年4月から校名を医療ビジネス観光福祉専門学校に変更した。入学定員35名中、入学者は15名(留学生12名、日本人学生3名)であった。その他、モンゴル人留学生7名受入れ、日東国際学院(日本語学科)との連携により、日本語能力試験N3以上の取得を委託し、現医療ビジネス観光福祉専門学校介護福祉学科入学に向けて、日本語知識を獲得させる機会を提供している。

(4) 湘南医療大学薬学部医療薬学科(仮称)申請準備

2019年2月寄附行為変更認可(薬学部設置に伴う受配者指定寄付金)を受け、2020年3月文科省申請予定(2021年4月開設予定)で、湘南医療大学薬学部医療薬学科(仮称・設置構想中)設置準備を行う。

(5) 下田看護専門学校学生寮の改築申請

下田看護専門学校学生寮の耐震補強工事に関して、文科省の補助金を利用して行うことを決定した。(工事着工2019年夏期、竣工は2020年2月予定)

(6) FD・SD活動の推進

本学園各学校に所属する専任教職員は、FD、SD活動は、必須の活動であり、教育部会、大学部会及び保育部会の3部会のいずれかに分かれて、2カ月に一度の全体研修会、6月の専門部会別研修会、11月のチーム医療研修会、2月の医療・教育研究会を実施した。2018年度も授業方法の

改善、個別学習指導方法、学生募集、社会貢献活動等、様々な課題や教育テーマについて研修を実施し、学生や地域に対して本学の教育研究活動を還元した。(21～30 ページ参照)

(7) 全学5つの活動 (PDC/全体朝礼/6S/全体研修会/業務改善)

PDC活動： 教育の質の改善、向上させるためのマネジメント手法として、本学園全体で取り組んでいる。平成 29 年度も、各校園とも、毎月、①学生募集 ②教務・学生支援 ③国家試験対策 ④6S活動 ⑤業務改善等の項目について、プラン・アクション・チェックを実施した。

全体朝礼： 全職員が業務の確認を行い、教育事業が円滑に進むようにしている。

6S活動： 部署ごとに月々のテーマ（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法）に沿って目標をたて、全職員が参画して実行・継続、習慣化する。

全体研修会： FD・SD活動の実践の場として、研修により自らのスキルアップを図ると共に、人材の育成に活かす。また、学生へのサービス向上の心と手法を学び実践する。

業務改善： 当月の問題点や課題点を検証し、業務の効率化を図り、次月に改善できるように対策を行った。特に、湘南医療大学では、2019 年度に私立大学運営費補助金並びに獲得型の補助金を申請するため、教育業務の未達成項目の改善を実践している。

(8) 地域連携推進及び研究推進

・地域連携推進

地域公開講座の実施 (31～32 ページ参照)

地方自治体や地区自治会との連携事業

①大学まつり/専門学校進学 ②中学校職業体験受入れ ③中学生対象大学体験会

・研究推進

個人研究の推進・研究計画から医療・教育研究会での発表

公的研究の推進・研究倫理教育の実施、科研費応募のための学内説明会、研究不正防止研修の実施

(21～38 ページ 各校の地域連携推進の状況、各部会の 6 月、2 月の発表状況、科研費やその他の競争的研究取得状況、等を参照。)

(9) チーム医療教育の実践

本学園は、ふれあいグループ（医療法人グループ）の教育部門としての位置づけで、各校の卒業生を医療人材としてグループ病院施設に輩出する使命を果たしている。本学の設置の趣旨の一に、「チーム医療」に活躍できる人材の育成を掲げている。

11 月のチーム医療研修会では、学園各校の教育課程で取り組んでいる 2018 年度の「チーム医療」教育について、臨床現場でのチーム医療を意識した症例研究を通じた授業展開の進め方などをグループワークで検討し、コミュニケーション能力の高い人材の養成にも努めた。

(10) コンプライアンスの徹底 (継続)

ア 規程のとおり、理事会、評議員会を実施した。また、各校園において、会議、委員会も予定

どおり実施した。

- イ 各校とも自己点検・評価を実施し、ホームページに評価結果を公表した。
- ウ 4月に教職員オリエンテーション又は研修会の際に、教職員の行動指針や行動規範について説明し、教職員ハンドブックとして、決算理事会終了後には、各校園に備付し、いつでも閲覧できるようにしている。
- エ 学園本部職員による内部監査（湘南医療大学及び旧医療ビジネス観光情報専門学校）の実施。監事による業務監査並びに会計監査を実施。及び、公認会計士による理事長ディスカッションも実施し、学園全体の業務監査及び財産状況の監査について監査事項に基づいて実施し、改善点は監事等から理事会等に報告し、適正化を図った。
- オ 学園は、学生にSNSの注意事項について指導を行っている。書きこんだ情報が思わぬ形で拡散する危険性もあるため、書き込む内容や情報の管理徹底には十分注意喚起を促した。

(11) 規程の整備（継続）

2018年度に施行、及び改定した本学園関係の規程は41ページ一覧の通りである。2019年度は、大学が完成年度を迎えたことを機に、不備や更新事項を確認し、学長、学校長、園長がリーダーシップをもって戦略的に運営できるように引き続き規程を整備する予定である。

2 人事計画及び組織

(1) 人事計画

本学園の教職員数は、学園の配置基準や所轄官庁等の指定規則等に準じて年次計画で教員及び職員の配置を原則としている。今年度からは、大学の昇任基準や専任採用基準を規定化し、大学設置基準を遵守した審査による教員人員配置となる。

また、各校の欠員教員の補充並びに2021年4月の開設を構想している大学薬学部（仮称・設置構想中）設置の申請に必要な教員を確保は、Jrec-IN等の教員募集サイトに公募を開始した。

(2) 組織

大学では、認定看護管理者（セカンドレベル）養成課程を申請したため、認定看護師研修センターの名称を看護実践教育センターに名称変更し、既病院勤務看護師のスキルを向上することを目的に研修事業を強化する体制を整備した。また、大学院保健医療学研究科の設置に伴い、大学院保健医療学研究科委員会を設置した。また、2018年10月から大学内にキャリア支援センターを設置し、学生の就職支援及び国家試験対策など、学生の能力や適性、志望に応じた支援を行い、自立を図れるための必要な能力を培うために整備した。

2018年度は、IR担当者の設置の必要性を認めつつも学園本部内に配置することは出来ず、2019年度の課題として残っている。

(3) 教職員の人材育成

教育部会、大学部会、保育部会の年間の様々な研修活動を通して、学園全体の「教育の質の保証」を高める人材育成のための研修を実施した。（21～30ページ 参照）

3 募集・広報

各校の学校説明会及びオープンキャンパスは、教職員並びに在学生ボランティアによって、学校の温かい雰囲気が伝わるような内容を考案し実施した。

1) 各校の受験状況：

本学園各校の定員確保は、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校作業療法学科、現医療ビジネス観光福祉専門学校医療ビジネス学科及び介護福祉学科を除き、入学定員を確保した。但し、湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校、下田看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校作業療法学科、及び現医療ビジネス観光福祉専門学校観光学科で受験者総数が142名減少した。

2) 本学園の特色を活かした広報活動：

ア 奨学金制度の周知

イ グループ就職先病院施設の情報周知

ウ 職業意欲を高める体験イベントをグループ病院と連携を図った広報活動

将来の目指す職種の職業体験においては、ふれあいグループ病院施設と連携して行った。各校とも高校訪問を中心に丁寧に高校の先生方に説明するとともに、受験生の保護者に対しても、本学園の魅力を伝え、ふれあいグループの奨学金制度の充実など魅力や卒業後教育の充実なども学科内容と併せて説明を強化した。

4 2018年度国家試験の結果

大学は初めて卒業生を輩出し、各国家試験を受験した。国家試験合格状況は、下記のとおり。

学校名	学科名	新卒				資格名	回
		受験者名	合格者名	合格率	全国平均 (新卒)		
湘南医療大学 保健医療学部	看護学科(看護師)	82	79	96.3%	94.7%	看護師	108
	看護学科(保健師)	12	10	83.3%	88.1%	保健師	105
	理学療法学専攻	36	33	91.7%	92.8%	理学療法士	54
	作業療法学専攻	26	20	76.9%	80.0%	作業療法士	54
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科	62	51	82.3%	94.7%	看護師	108
茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校	理学療法学科	53	52	98.1%	92.8%	理学療法士	54
	作業療法学科	17	13	76.5%	80.0%	作業療法士	54
	言語聴覚学科 【2年制】	33	30	90.9%	68.9%	言語聴覚士	21
	社会福祉専攻科 (通信課程)	45	23	51.1%	29.9%	社会福祉士	31
	介護福祉士実務者研修 (通信課程)	34	30	88.2%	73.7%	介護福祉士	31
下田看護専門学校	看護学科	32	28	87.5%	94.7%	看護師	108

5 休退学者

2018年度の各校の休退学者数の状況は、学園全体で前年度より休学者は4名減少したものの、退学者は8名増加した。特に大学で10名、及び旧医療ビジネス観光福祉専門学校で退学者が15名増加した。

Ⅲ 各学校の事業報告

1) 湘南医療大学

(1) 理念の実践

全体研修、教授会、その他委員会等各種会議をとおして、全教職員、学生に対して「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念を礎とする、思いやりのある教育活動を実践することを確認し、行動した。

(2) 教育活動の実践

2018年度においても、大学設置の趣旨、目的を全教職員で共有し、学生が健康で有意義な学生生活を送れるよう教育活動に努力した。そして、2018年度は看護学科85名、リハビリテーション学科86名の第4期生を迎えた。

ア) 学修指導

オリエンテーションガイダンスを通じて、看護学科及びリハビリテーション学科の設置趣旨の理解促進、及び学生便覧、シラバス等により4年間にわたる系統的な学習計画の指導・説明を実施した。

イ) 入学前教育の実施

看護学科、リハビリテーション学科ともに、入学に先立ち、AO入試入学者は11月後半から、推薦入試入学者に対しては1月より、入学前課題を出題した。パソコン・スマートフォン・タブレット等を使ってインターネット上で行うウェブ課題形式で、基礎学力・数学・物理・化学・生物等の課題を出題した。

ウ) オフィスアワーの実施

学生が主体性を持って自主的に学習計画を進めるにあたり、オフィスアワーを活用できる環境を整備し、オリエンテーションガイダンス、授業概要誌面上の周知、教員研究室前の掲示等を活用して、学生のオフィスアワーの活用を促す取り組みを促進した。

エ) 国家試験結果と実施した対策

国家試験結果は看護師合格率96.3%(79/82名)、保健師合格率83.3%(10/12名)、理学療法士合格率91.7%(33/36名)、作業療法士76.9%(20/26名)となった。

看護学科は、1年生は国家試験の重要性についてガイダンスを行った。2年生は学生が自身の知識レベルを知り国家試験の意識高揚と学習計画の基礎固めを目的に、模試業者による模試を2回(6月・2月)実施した。3年生は2回(6月・2月)に業者模擬試験を実施した。4年生は、業者模試7回、国家試験対策講座(2業者合計16回開講)と解剖学担当教授による基礎講義7回を実施し、その他国家試験対策委員及び9月から設置したキャリア支援センターによる学習フォローを行った。

リハビリテーション学科理学療法専攻は、1年生は成績不良者にフォーカスし生理学、解剖学の自己学習用のテキストを配布しフォローした。2年生は専門科目が増えたことで講義内に国試の過去

問題に触れながら年度末に3年生と同様の専門基礎科目の模試(解剖学・生理学・運動学)を実施した。3年生はゼミ形式の学習と担任による過去問題の解答、2月末に業者の基礎模試(解剖学・生理学・運動学)を実施した。4年生は臨床実習終了後、業者による特別講義(解剖学・生理学・運動学・臨床医学)を受講し、業者による模試と過去問の計15回実施し、ゼミ単位で学習フォローを行い、成績不良者には集中し対応した。

リハビリテーション学科作業療法学専攻は、1年生は三科目模試を2月に実施、毎週1回実施するホームルームにて、クラス担任を中心に学生の資質向上を図るため、自学自修の勉強会を実施した。2年生は専門基礎科目(解剖学・生理学・運動学)の過去模試を行い、結果のフィードバックと個別対応を行った。3年生はゼミ形式の学習と担任による過去問題の解答を行い、業者の専門基礎科目模試(解剖学・生理学・運動学)とオリジナルの業者模試を実施した。4学年は、臨床実習後に夏合宿を行い、皆で国試を乗り越える覚悟を共有し、模試を業者・教員オリジナルの過去問計8回実施し、ゼミ単位で学習フォローを行い、成績不良者には集中し対応した。

オ) 就職支援

グループの就職説明会を看護学科、リハビリテーション学科ともに4月に実施した。学内で6月と9月に選考試験を実施した。グループ内定は看護学科19名、理学療法学専攻26名、作業療法学専攻13名の計58名となった。就職者数は全体で128名(卒業生144名)。

(3) FD活動

教員の教育力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント(FD)の取り組みの一環として、FD委員会を実施し、学生による授業評価アンケート、教員相互の授業参観、新任教員を対象とした教育方法・学生指導に関する研修会を企画実施した。

ア) 学生による授業評価アンケート

「FDネットワークつばさ」の共通フォーマットによる授業評価アンケートを前後期に実施した。アンケート結果は、授業科目ごとにデータ化するとともに授業科目群別のレダーチャートを作成、科目担当教員に渡すと同時に、今後の授業改善内容を記す「リフレクション・ペーパー」の作成と提出を依頼した。

イ) 教員相互授業参観と自己評価

効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営方法等について、各学科前後期に分かれて各2科目を対象として授業参観を実施した。実施後、参観した教員にはワークシートを提出してもらい、教員個々の授業運営への活用や、今後の授業参観の運営方法に関する改善点等について意見交換と情報収集を行った。

ウ) 他大学の教育方法の伝達研修

両学科のFD委員から他大学で展開している研修に参加し、発表形式の研修を実施した。

エ) 教育方法改善検討会

他大学の教育方法の伝達研修にあわせて、本学の両学科専攻へ導入できないかグループワークを行い、検討した。

オ) 臨床実習指導方法に関する講習会

両学科ともに実習指導者及び学内教員に対して臨床実習指導法について研修を実施した。

カ) 自己点検評価に関する FD 研修

平成 28 年度の自己点検評価を元にグループワークを行い、内容や課題について理解を深めた。

キ) 実習評価に関する研修

両学科ともに学内教員に対して実習評価について研修を実施した。

ク) 教育方法改善検討会

学生のモチベーション向上について、1 学科 2 専攻ごとに事例発表を行い両学科混成でグループワークを行った。

(4) 私立大学等改革総合支援事業

文部科学省に提出した大学設置計画の履行遵守を念頭に、より良い教育・より質の高い教育目標を達成するための指針とするために、本学は大学運営管理会議において私立大学経常費補助金事業の一つである「私立大学等改革総合支援事業」の評価項目に照らし合わせて状況を確認し、大学教育の質的転換を図られるように課題に取り組んだ。

また、私学共済事業団主催の説明会に参加し、その後 SD 研修において本事業をテーマとして研修を行って事務職員全員で本事業と担当業務との関わりについて認識を深めた。

(5) 学生募集活動

学生募集については、計画的広報活動のもと、看護学科については、516 名の志願者に対して、アドミッションポリシーに基づく選考の結果、85 名の入学者（定員超過率 1.06）であった。また、リハビリテーション学科は 367 名の志願者に対して、選考の結果、86 名の入学者（定員超過率 1.075）であった。

(6) 地域交流活動

横浜市の主催である大学・都市パートナーシップ協議会に参加。ヨコハマ大学まつり（9/30）において、実施に協力した。

また、戸塚区が主催するワクワクけんこうフェスタへのブース参加、戸塚区との共催による無料公開講座開催、神奈川県生涯学習推進協議会が主催する生涯学習フェアへのブース参加を行った。

(7) 大学院設置構想

前年度に文部科学省に提出した大学院設置認可申請書について、平成 30 年 10 月 31 日に認可された。これを受けて、大学院入試を実施し、11 名の第 1 期生を受け入れる運びとなった。

(8) 認定看護師養成課程（認知症看護分野）

平成30年6月1日に認定看護師養成課程（認知症看護分野）の開講式を行い、第1期生15名を受け入れた。平成31年3月22日には修了式を開催し、第1期生15名に修了証書を授与した。

なお、平成31年度受講生の入試を実施し、17名を合格とした。

(9) 認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）

平成31年3月29日に認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）の申請を行った。

なお、以下の項目についてはホームページ<https://www.sums.ac.jp/html/disclosure/>にて詳細に公開している。

- ・授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- ・授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
- ・学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
- ・学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- ・卒業（修了）者数、進学者数、就職者数

2) 茅ヶ崎看護専門学校

2018年度最重要課題は①看護師国家試験合格率 100%②学生募集における出願者数の確保③退学者0名を掲げていた。学内の学生状況を安定させ、「資格が取れる学校」をPRし、地域医療に貢献できる人材の育成を行う学校として認知を広めるよう努力した。

(1) 学生募集

2018年度の募集活動の課題は①推薦入試含めた高校生出願者確保②一般入試の減少を食い止め、出願者確保を目指した。広報では、「資格が取れる学校」をPRし、地域医療に貢献できる人材の育成を行う学校として認知を広めるよう努力した。

入試方法を変更し、一般入試を2回から1回に、AO入試を2回に増やして実施した。

理由は、社会人出願者は昨今の社会情勢、景気回復が見込まれ、社会人出願者が減少することが予測されたため、社会人の比率を減少させ、高校卒(新卒者)の割合を増やす対策を検討した結果、AO入試を代替として実施した。

最終的に174名の出願(倍率2.06倍)を確保するに至った。今年度も、出願対策を多角的に検討し、2倍以上の倍率を維持するために、高校を中心とした募集活動の強化を図る。

(2) 国家試験

2018年度も引き続き、看護師国家試験合格率100%の目標を掲げた。2017年度国家試験合格率が90.8%であったため、今年度は、全員国家試験合格を目指して、模擬試験毎月実施、朝学習の徹底(毎朝5分間テスト)、長期休暇時の補講などを行い、知識の定着と技術の習得、看護師としての態度を修得することを目指して授業を行った。

しかし、昨年を下回る結果(82.3%)となった。結果を分析し、弱点を克服できる対策を講じて、国家試験対策の講義、補習などを充実させる。

(3) 学生支援

2018年度の学生支援における最重要課題は退学者0名を掲げた。しかしながら目標を達成することができず、昨年より退学2名減少、休学4名減少となった。更に教員のきめ細やかな対応やカウンセラーの活用を心がけるなど、学生支援体制の改革が必要と感じている。

1,2 年次生の課題は、解剖生理学、病理学、基礎看護学の知識・理解の不足にある。その対策として数学、国語に関する補講を実施したが、伸び悩んでいた。今後は、基礎学力の向上を念頭に対策の強化を図る。

3 年次生の課題は、コミュニケーションに関する問題を抱える学生は、実習において、事前学習や記録、アセスメントで躓く傾向がある。様々な事象に対応し、学生と個別面談を出来るだけ実施し、支援を行った。学生の自己学習環境を整え、基礎学力定着のための授業方法を検討する。

3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

2018 年度は、教職員一人ひとりが学校運営に関わり、徹底的に学生の面倒を見る姿勢や、ふれあいグループとの連携を高めて、優秀な卒業生をグループに就職 (56 名) させることができ、各個人が積極的に業務に関わったことを肌で感じる一年間であった。また、学生を「徹底的に面倒を見る」「学生の為にやれることは何でもやる」という姿勢で学生との関わりや学校行事の企画・運営をした結果、事業目標の成果に現れた。

(1) 学生募集

2018 年度の学生募集活動は、例年同様、年内に定員 9 割程度確保できるように展開した。2017 年度の学生募集に苦慮した経験を踏まえ、会場ガイダンス等において学科教員の積極的な取り組みもあり、理学療法学科は 23 名、作業療法学科は 2 名及び言語聴覚学科で 6 名の受験者数が前年度よりも増加した。

理学療法学科並びに言語聴覚学科に関しては、入学定員を確保したものの、作業療法学科は前年度に引き続き定員を確保することができず、今後は作業療法士の必要性や楽しさをアピールできる説明会などのプログラムの変更が急務であり、受験生への個別対応を試み方法を変更している。また、大卒を対象とする言語聴覚学科では、学力面の課題や経済的な面での学生確保の実情を把握し、今後の募集活動につなげられるように検討を重ねたい。

(2) 国家試験

理学療法学科は、53 名中 52 名合格 (合格率 98.1% 全国平均 85.8%)。作業療法学科は、17 名中 13 名合格 (合格率 76.5% 全国平均 71.3%)。言語聴覚学科は 33 名中 30 名合格 (合格率 90.9% 全国平均 68.9%)。3 学科全てで、全国平均を上回る好成績を残した。

また、附帯教育事業の社会福祉専攻科 (合格率 51.1% 全国平均 29.9%) 及び介護福祉士実務者研修 (合格率 88.2% 全国平均 73.7%) においても、全国平均を上回る結果となった。

引き続き教職員一丸となり、合格率 100% を目標に努力する。

(3) 学生支援

2018 年度の退学者数は、前年度比 20% 減となった。しかしながら、1 年次生の退学者が多い現状を踏まえ、入試方法の見直し、入学希望者と将来の職業に対するミスマッチ防止策を徹底することも今後の課題となった。

学生支援等、学生生活での学生へのサービスについては、学習環境の整備として図書整備・備品

整備が徐々に整備している段階である。また、学習環境に加えて、サークル活動などを通して教職員と学生が交流できる機会を活発化させることにより、互いの信頼感につながり、職業意識の高まりを感じることもつながると考えられたため、今後も課外活動にも取り組みたいと考えている。

そして、入学前教育、医療職の重要性、医療人になる覚悟等、社会人基礎力を高める教育を通してふれあいグループ並びに地域医療に貢献できる人材の養成を目指す所存である。

4) 下田看護専門学校

2018年度の最重要課題は①学生募集における出願者数の確保②看護師国家試験合格率100%③退学者0名を掲げていた。学内の学生状況を安定させ、「資格が取れる学校」をPRし、地域医療に貢献できる人材の育成を行う学校として認知を広めるよう努力した。

(1) 学生募集

2018年度の志願者数は、91名（前年度4名減）であった。伊豆及び静岡東部地区の新卒受験生が相対的に高いものの、少子化の影響もあり、受験生の減少傾向は続くことが予測される。また、就職状況の改善を受け、社会人の受験生も減少している。そのため、今後も対策が必要であると考えている。

そのような状況の中でも、定員確保を円滑に進めるために、指定校推薦の回数を増やし、AO入試と特別AO入試を一本化して確保を目指した結果、指定校推薦の合格者は増えた。今年は、一般入試での辞退が少なかったこともあり、定員40名（出願倍率2.28倍）を確保することができた。

(2) 国家試験

32名受験し28名合格、合格率87.5%（全国平均94.7%（新卒））であった。

課題が多い学年であったものの、朝学習の徹底（毎朝5分間テスト）、実習前のノート整理の指導、実習中の小テストの実施、実習後の領域確認テストの実施、長期休暇時の課題などを行い、知識の定着と技術の習得、看護師としての態度を修得することを目指して教職員一丸となって指導を行ったが、期待する結果につながらなかった。国家試験後のアンケート調査によると、全般的に学習時間が足りていないことがわかったが、どの様に苦闘し、成功したのか等の具体的な方法がわからないものであったため、しっかりと分析し、次年度の課題としてこの教訓を活かし、全員合格に向けて更に努力を重ねたい。

(3) 学生支援

昨年度は、下記5項目について、取り組んだ。

- ①授業時間外の学習強化（全学年の朝学習実施(5分テスト)
- ②個人成績の提示（現在の学習状況の開示）・確認テスト結果の保護者への送付
- ③定期面談の実施（成績低迷者だけではなく精神面の不安を抱える学生の早期発見のために実施）
- ④長期休暇中の課題の作成（休暇前の学習の振り返りシート作成と国家試験対策）
- ⑤確認テスト成績不振者対象の補習（夏季休暇）

学年によって温度差がでたが、おおむね達成できたと考えている。また、実習では、学生動向だけでなく指導方法の確認など学校側と臨地側の連携を取り、不足を補い実施した。

退学者は、1年生の休退学者は無く、2年生1名、3年生3名であった。

次年度は、下記を重点項目として取り組みを実施する。

- ①国家試験全員合格、全員卒業
- ②看護師としての「知識・技術・態度」の習得を教育的に実施する
- ③講師との連携強化（国家試験対策として講義内容の評価などを積極的に伝達し、情報共有する）
- ④解剖学・生理学・疾病論の三教科を最重要教科として位置づけ、1年生より関連付けを行う
- ⑤実習の強化（④の三教科をきちんと関連付けさせ、実習で各個人が展開できるよう指導、領域別実習の事前学習の強化（ノート作りの指導）

5) 旧医療ビジネス観光情報専門学校

(1) 学生募集

2018年度の志願者は176名、入学者は102名となった。2017年度（志願者113名、入学者108名）に比べて、留学生の出願が増加したことにより志願者数は増加したが、情報システム学科を廃科したことにより入学者数の減少につながった。

しかしながら、医療ビジネス学科が「職業実践専門課程」の認定を受ける事ができたため、2018年度から「教育訓練給付金」の対象講座となる「専門実践教育訓練」の認定を得る事ができた。このことにより社会人経験者の学生募集につなげている。

(2) 資格取得に向けた取り組み

合格率向上を目標として、ゼミ授業や検定対策及び日々の補習授業や資格直前対策期間を設け、集中的に授業を実施した。その結果、各学科・専攻の一人あたりの平均資格取得数が、医療ビジネス学科医療経営専攻2年8.0個（前年5.7個）/1年5.1個（前年5.5個）、医療情報管理専攻2年4.5個（前年5.4個）/1年2.8個（前年4.0個）、観光学科トラベル交通専攻2年7.9個（前年7.6個）/1年4.3個（前年5.2個）、ホテルブライダル専攻2年8.6個（前年10.9個）/1年6.1個（前年7.2個）となり、一定の成果を上げることができた。特に医療経営専攻のグループ入職者（医事課）の診療報酬請求事務能力認定試験では取得率が80%（前年度は取得者なし）と成果を上げることができた。また、観光学科ではホテルビジネス検定2級の合格率（100%）と評定平均の結果が全国1位となり主催団体より表彰を受けた。また、介護職員初任者研修の取得者を13名輩出することができた（昨年度9名）。

2019年度は、資格合格のための基礎学力をさらに強化し、学習習慣を身につけさせる取り組みを2018年度と同様に行う。そして、診療報酬請求事務能力認定試験、医療経営士、情報処理技術者試験、医療情報技師、国内旅行業務取扱管理者試験、CWS認定ウエディングスペシャリスト、レストランサービス技能、サービス介助士、介護職員初任者研修等の国家試験や民間資格について、更なる強化を図り、資格合格率（取得率）の向上を目指す。

(3) 学生支援

全員就職を目標に、エンプロイアビリティを学生に身につけるために全教職員が学生指導に関わり、授業～就職活動～卒業まで一貫した指導内容の充実を図った。

- ① 自立した社会人に必要とされる専門スキルと社会人基礎力向上を図り、グループ理念の実践者になるための教育指導を展開した。
- ② 学生各人の能力に応じた指導目標を設定し、個別にキャリアカウンセリングを行った上で、就職に活かせる専門技術を身につけさせた。
- ③ 医療従事者をはじめとする各学科における専門性を身につけるためのカリキュラムと指導を展開し、資格取得対策に力を注いだ。
- ④ 技術及び能力の顕在化を図った（資格取得、就職先内定など）。

上記 4 項目を学生が実感できる力を養うべく、各種行事や授業などを実践的に取組んだ。その結果として、全学科（日本人クラス）の就職率は就職希望者 54 名に対し、内定者 48 名で 88.9%（29 年度 96.1%、28 年度 94.5%、27 年度 92.3%、26 年度 72.9%）となった。

医療ビジネス学科では 11 名（医事課 5 名、総務課 1 名、診療支援課 1 名、株式会社 FMC4 名）、観光学科から 1 名（介護職）合計 12 名の学生がふれあいグループ入職を果たした。

次年度の課題として次の事項を重点項目として取り組みを行う。

- ① 全員就職に向けて指導強化（就職対策ゼミ授業の実施・個別指導強化）
- ② グループへの就職をより一層促すための取り組み（カリキュラム、グループの魅力を伝達、人事との連携など）
特に情報課と連携をして、情報処理技術者として就職を促すためのカリキュラムの見直しと指導強化を図る。医療経営も含めグループ入職のためのガイドラインを策定する。
- ③ 全員進級、全員卒業に向けて指導強化（学習の習慣化・講師との連携強化）。
退学・除籍者を極力減らすための指導方法を検討し、実施する。
- ④ 各資格対策授業の充実（基礎学力向上の取組み・授業内容との連動・資格対策授業の強化）
上級資格の取得率を向上させる。
- ⑤ 医療ビジネス学科の病院実習および情報課へのインターンの準備の充実（事前学習の強化・グループ施設との連携）
介護福祉学科の施設実習の充実（グループ施設との連携）
- ⑥ 学生定員確保（全教職員による活動強化）
高専連携を図り、学校認知度を向上させて学生募集の基盤を固める。
- ⑦ FD（ファカルティ・デベロップメント）強化（授業担当可能領域の拡張）
教員の教育力を高め、質の高い学生の育成に努める。
- ⑧ 教職員の意識改革（全教職員が、意志を統一して最重要課題の目標を達成）

6) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

幼保連携型認定こども園みどり幼稚園は学校教育法第 22 条及び 23 条に基づき、乳幼児により良い教育環境を与え、安定した保育活動が出来るように努め、就学前の子どもに関する教育、保育等の提供に関する法律、第 2 条第 7 項に規定する目的及び第 9 条に掲げる目標を達成

するため乳幼児期全体を通して、その特性及び保護者や地域の実態を踏まえ、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものになるよう環境を通して教育・保育を行ってきました。ふれあいグループの理念である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を常に念頭に置き、園児一人ひとりの個性を大切に、安全で安心して過ごせるように行事や保育活動を行いました。教育方針や保育活動を保護者の皆様に理解していただく為に、月1回、予定表やクラスだよりを配布しています。幼稚園部門ではクラス懇談会の開催や誕生会後に誕生児の保護者様と園長は懇親会を開き情報交換や子育てについての相談など行いました。保育参観日を設け、活動、ご自分のお子さんの園での様子を見ていただきました。また保護者の会と連携をとり、園の行事や保育活動などに理解や協力を得ることが出来、目的を達成しました。教育目標の一つでもある「丈夫な体を持つ子に」を大きな目標として年間を通して乾布摩擦の励行や縄跳び、鉄棒など達成感が持てる活動も取り入れました。絵本活動にも力を入れ、絵本の読み聞かせの大切さを保護者様に理解していただけるように講演会を開催、子ども達は月刊絵本1冊を管理し、いつでも絵本に触れることが出来る環境作りを整えてきました。年長児には毎週絵本の貸し出しも行いました。絵本へ興味を持つ子ども達が増え、話を聞く態度や集中力もつきました。3号認定の1, 2歳児、保育部門では散歩や園庭遊びを行い、自然に触れながら集団のルールや自立を目指してきました。言葉も豊富になり、交友関係も広がってきています。逞しく成長しています。3, 4, 5歳児の1号認定と2号認定の理解も深まり、保護者の要望も取り入れながら今後の課題として受け止め、さらに対応していきたいと思っています。

子育て支援のひとつである横浜市の預かり保育も定着して利用者数も安定し、定期利用者の増加がありました。預かり保育利用園児は同年齢だけでなく異年齢と交流を持つことが出来、良い関係が作られています。しかし長時間保育のため、子ども達の中にはストレスを感じている子どもも多く、精神的な配慮も心がけてきました。長期休暇中の1号認定の預かり保育利用者と2号認定の園児は長時間の保育内容を考え、夏はプール遊びや午睡も取り入れました。

また未就園児保育（トライスクール）では親子クラス、一人通園クラスとして集団生活のルールを知り、保育疑似体験が出来たと思います。子育ての相談を受け、保護者同士の情報交換にも役立っています。2歳児と連携を取り、入園間近には交流を重ねてきました。平成31年度の新入園児の90%がトライスクール入会者でした。入園に繋がり良い成果があらわれています。

(1) 園児募集

- ①園内見学は6月4日から開始、予約制で月・火・金曜日に一日5組の未就園児親子を受け入れ、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園の特色や、保育活動、教育方針などを理解していただけるように親切かつ丁寧に対応してきました。保育部門への見学者も対応しました。公開保育、説明会の日を含め、73組の親子の見学がありました。
- ②未就園児親子対象の園庭開放を毎週水曜日10時から12時までおこなっています。
- ③放課後「はまっこ広場」として地域の方々に園庭を開放しています。
- ④みどりっこまつり、講演会、人形劇鑑賞、お餅つきなどを行い、親子や地域交流に努めました。また、ホームページで幼稚園の紹介、月の予定や行事、未就園児対象のわらべうたへの参加募集など行い、幼稚園へ多く足を運んでいただきました。

⑤教職員は常に情報を共有し、来園者には親切かつ丁寧に対応するよう心掛けました。

⑥幼保連携型認定こども園として3号認定、1歳児8名、2歳児10名、2号認定として3・4・5歳児各12名を定員に設定し、区役所からの受け入れを行いました。5歳児は定員には達せず6名の受け入れに終わりました。

(2) 園児教育

- ・幼稚園教育要領の中の健康・人間関係・環境・言葉・表現を日々の保育活動に取り入れ、保護者には保育参観をはじめ、運動会・発表会・作品展などの行事に参加していただき、成長した姿を見ていただきました。1、2歳児へは自由参加を呼びかけ、幼稚園部門に関心を持って次に繋がるよう配慮しました。
- ・給食を通して食育にも力を入れ、給食会議では献立の工夫や食物アレルギー対応について考えています。給食は認定こども園みどり幼稚園の大きな特色の一つです。
- ・教育目標の一つである「丈夫な体を持つ子に」の取り組みとして乾布摩擦を励行しました。
- ・絵本活動に力を入れ、毎日、読み聞かせを行っています。年長児への絵本の貸し出しも恒例になり、絵本に興味を持つ子ども達が増えています。また集中力にも繋がっています。
- ・ひとり一人の個性を大切にし、その子にあった言葉かけや対応を行ってきました。主体性を大切にしてこどもの思いや考えなどが引き出せるよう対応しました。日々の行動で心配や不安なことに対しては保護者様と面談や話し合いを行い、見守ってきました。
- ・関わりの難しい子に対しては専門機関から指導を受け、保護者様と連携を図り、子ども理解に繋がりました。
- ・幼稚園の行事や保育活動の様子を記した「クラスだより」を配布し、親子の関わりの大切さや園の考え方を載せました。
- ・誕生会に、その月の誕生児の保護者様を招待し、いっしょにお祝いをしました。誕生会終了後、園長は保護者様との懇親会を開き、子育て相談や話し合いを行いながら教育方針を理解していただき、信頼関係を深めました。
- ・保育活動や行事を通して年長・年中・年少の異年齢の交流も深めました。(着替えの手伝い、給食準備、朝の自由あそびの交流など)
- ・幼保小交流事業や中学校・高校と定期的に交流を重ね、園児、生徒、学生がふれあう時間を持ちました。
- ・湘南医療大学や専門学校の実習生を受け入れ、幼児理解に繋がりました。
- ・イベントやはまっこ広場、トライスクールなどを通して、園児募集に役立つ機会を得ました。

7) 学園本部

(1) 認可申請

湘南医療大学大学院設置申請及びこれに伴う寄附行為変更認可申請を行い、2018年11月に認可された。

医療ビジネス観光情報専門学校介護福祉学科設置申請書を神奈川県に提出し、7月に設置認可を受けた。これに伴い、学校名変更及び課程増があったため、寄附行為変更認可申

置認可を受けた。これに伴い、学校名変更及び課程増があったため、寄附行為変更認可申請を行い、11月に認可された。また、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の附帯教育事業であった介護福祉士実務者研修を旧医療ビジネス観光情報専門学校での運営に変更手続きを行い、2019年2月に認可された。

2018年12月に湘南医療大学薬学部（仮称）を設置するための寄付金募集活動を行うための寄附行為変更認可申請を行い、2019年2月に認可された。

2019年3月に日本看護協会に2019年度中に開講予定の認定看護師管理者（セカンドレベル）の設置申請を行った。

(2) 監事監査方針及び計画

2018年度監査対象校である湘南医療大学、旧医療ビジネス観光情報専門学校の内部監査及び監事監査を以下の通り実施した。

【業務監査】

学校名	内部監査	監事監査	結果
湘南医療大学	2018年9月6日	2019年3月20日	適性な運営であることが確認された。
旧医療ビジネス観光情報専門学校	2018年12月26日	2019年3月5日	適性な運営であることが確認された。

【会計監査】

2019年5月9日 公認会計士より監事2名が2018年度の予算執行状況等の説明を受け、適切な運営であることが説明された。

IV. 大学部会、教育部会、保育部会 平成30年度 研修会プログラム

【大学部会】

月	内容	発表者
4.5月	ふれあいグループが目指すもの 「湘南医療大学のこれからの教育と実習施設について」 ①湘南医療大学のふれあいグループにおける役割 ②湘南医療大学 学生への就職アドバイスについて ③湘南医療大学の教員・職員として、グループに就職する学生を増やすために各自何ができるか 「国家試験100%合格の方法」 ①国家試験合格への指導方法（看護学科/リハビリテーション学科に分かれて実施） ②全員が合格するように教員が一丸となる方法について考える ③成績不振者にどのような支援をしていくかを具体的に考える（グループワーク） 厚生労働省にて検討中の理学療法士作業療法士カリキュラム検討の内容について 看護学教育コア・カリキュラムに関する報告研修	大屋敷 芙志枝 GW 長澤 片山
6月	平成30年度専門部会別研修会（プログラム別表）	
7.8月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 芙志枝
	≪FD研修≫	
	～試験及び成績評価基準の考え方について～ 試験及び成績評価基準の考え方について 前期の国家試験対策の状況報告と100%合格への取組み 学生が学習習慣を身に着けるための取組（休退学防止）～学習低迷者への効果的な指導法～ 看護学科、リハビリテーション学科 自己点検評価に関するFD研修 臨床実習で成長した学生への指導臨床実習で躓いた学生への指導 臨床実習のサポートについて臨床実習指導方法のグループワーク	寺本 鈴木、大矢、鶴見 鈴木、山本 GW 高島、坂上、竹原 } GW
	≪SD研修≫	
	2019年度オープンキャンパスに向けて 残業を減らすために何をするか 設置認可申請時から完成年次までの大学活動の検証	成田 GW 小林
9.10月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 芙志枝
	≪FD研修≫	
	研究活動における研究費不正行為防止に関する研修※研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文科大臣決定）※湘南医療大学研究費不正使用・研究活動に関する各規程 研究内容や研修手法、科研費獲得の工夫等 2017年度授業評価アンケート（自ら学ぶ意欲の向上）の高評価教員による講義方法の発表 10月開催のチーム医療論の概要と講義の勧め方について	橋本、中川 寺本、弓気田、森尾 笠原、渡邊、大森、鈴木 WGグループメンバー

	<p align="center">《SD 研修》</p>		
	各部署の数値データの調査分析発表（総務、入試広報、教学、企画） 新入職員・若手職員による活動報告 就職支援状況と今後の課題 2019年度学生便覧更新についての検討会		阿部、成田、西村、 奥脇、中川 伊藤、安室 西村 GW
11月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	<p align="center">《FD 研修》</p>		
	2018 年度チーム医療論を終えて見えてきた課題について今年度の課題点をもとに次年度の当該科目の改善についての GW		GW
	<p align="center">《SD 研修》</p>		
	次年度開講に向けて超勤増が予想されるため各部署 GW し業務計画内容と対策を発表 業務改善 湘南医療大学 HP について（在学生サイト、他大学との比較）		GW 諸橋、田中、村上、深澤 江口、安室
2月	第 15 回ふれあいグループ医療教育研究会（プログラム別表）		
3月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	<p align="center">《FD 研修》</p>		
	試験作問の作法について教授する 2019 年度卒業生（2 期生）の国家試験対策について 他大学の教育方法の伝達 教育方法改善検討会		橋本 鈴木、坂上、鶴見 金嶋、猪股 学科担当
	<p align="center">《SD 研修》</p>		
	2018 年度の就職状況の報告 2018 年度入試広報総括と 2019 年度の入試広報について 卒業式の総括次年度に向けての対応 2018 年度国家試験対策の総括について 私立大学等改革総合支援事業において IR はどう位置づけられているか		西村 成田 中川 秋田・西村 GW

【教育部会】

月	内容		発表者
4.5月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護校	就職 100%を目指して教員・職員として各自ができること 国試対策指導方法について 模擬授業：基礎看護学技術演習	山本 増田 木村
	リハ校	就職 100%とするためのアドバイスを考える 学生をつまづきやすいポイントをわかりやすく指導するためには 模擬授業	加藤 加藤 岩淵、櫻井

	下田校	就職100%を目指して各自のできること 国家試験合格に向けた学生への関わりについて 模擬授業：食事援助の基礎知識～専門用語を身近にする授業～ 学校説明会の内容検討について	野口 野口 吉水 GW
	医ビ校	就職100%を目指し教員職員として各自ができること 学生をつまづきやすいポイントをわかりやすく指導するために 発達障害	井上 GW 坂田
6月	平成30年度専門部会別研修会（プログラム別表）		
7.8月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護校	就職100%にする、教職員として学生に指導すること 学校の魅力強化～学校説明会参加者の傾向と求めているものについて～ 不得意科目を作らないための工夫～「看護過程展開」について学生が陥りやすい傾向について学ぶ～ 模擬授業：老年看護学	矢崎 山口 増田 対馬
	リハ校	就職・エントリー等就職指導について 夏休みの学校説明会やオープンキャンパス等、来校者に学校の魅力を伝える効果的な方法を教職員全体で共有する。 わかりやすい授業の工夫により、落ちこぼれて学校が嫌になることを防止するには 模擬授業：PT 「評価法（MMT）」OT「日常生活活動学（ADL）」	藤原 米本、神保、岩淵 GW 清川、神保
	下田校	就職の基本知識 学校の魅力を強化する 休退学者を減らす本校の取り組み 模擬授業：オープンダイアログ	柳 鈴木 柳 高橋
	医ビ校	就職・エントリー等就職指導について 夏休みの学校説明会やオープンキャンパス等、来校者に学校の魅力を伝える効果的な方法を教職員全体で共有する。 各学年の休退学防止対策の取組みと例年の比較 模擬授業	坂田 山田 GW 森
9.10月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護校	就職100%を目指して～看護師採用の現状と今後～ ～勉強に集中する学生、向学心を育てるには～ 再試・追試をださないための工夫～試験評価項目の共有、国試対策～ 模擬授業：在宅看護論	前川 町田 橋田 川北
	リハ校	国家試験対策：各学科の年間計画 ビジネスマナー（文書作成の際の留意事項） ーより効果的な実習・教員と実習指導者の共通認識や役割ー ーよりよい臨床実習のために何が必要かー 模擬授業	各学科担当者 藤田 各学科担当者 渡部、合田

	下田校	国家試験対策の今年の現状 3年生の課題と1・2年生への対策強化 年内38人確保に向けて(入試における判定と合格ラインの検討) 問題解決型授業の導入状況例の発表(下田で初めて導入して) 模擬授業:基礎看護学方法論IV	柳 鈴木 吉水 進士
	医ビ校	介護福祉学科実習室の用途、管理方法等 日本が初めての学生とのよいコミュニケーションの取り方は 各種奨学金について(教職員が理解すべき奨学金制度の説明) 日本人と留学生が混在するクラスの授業運営方法 模擬授業:数学的思考力の向上をめざして	佐原 今村 杉山 森
11.12月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護校	国家試験対策状況報告ーさわ研究所研修に関して報告ー 著作権について 再試・追試を出さないための工夫 ①技術演習の取り組みについて ②シミュレーション教育についてー京都科学セミナー報告ー 模擬授業:総合看護技術	国家試験担当教員 三枝 橋田 木村 高橋
	リハ校	国家試験対策 2018年度学生募集中間報告ー2018年度の傾向ー 休学者対策や国家試験対策を念頭に置いて 模擬授業:動作分析学、解剖学実習講義の工夫	各学科担当教員 久保田 各学科担当教員 山崎、近藤
	下田校	入学前オリエンテーションについて(新入生向けの情報発信) 平成32年度入試方法を検討する(広報担当者からの現状分析と今後について) 国家試験対策について(第13期生の現状と課題) 模擬授業:環境調整技術	柳 鈴木 柳 高坂
	医ビ校	今年度の就職について 著作権について 休学者・退学者を減らす取組(日本人クラスと留学生クラスと混合クラス) 模擬授業:ワークショップ	就職担当教員 杉山 坂田 本間
2月	第15回ふれあいグループ医療教育研究会(プログラム別表)		
1.3月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護校	国家試験対策状況報告ー冬期講習後の学生の進捗についてー 茅ヶ崎看護が他校に勝る魅力とは～平成31年度募集状況を踏まえて～ 看護者としての基礎を確立する 看護過程の考え方・学び方ー老年看護学の事例展開からー 模擬授業:母性看護学方法論III	国家試験担当教員 町田 野澤 内田

1.3月 つづき	リハ校	ふれあいグループが目指すもの 休退学者を減らす対策 留年者を減らす、国試受験者を増やす、わかりやすい授業の実施 新カリキュラムに関して 模擬授業：症候障害学Ⅰ、嚥下障害概論	大屋敷 芙志枝 古谷、野本、岩淵 古谷、野本 米本、小林
	下田校	下田看護専門が康の PR1 充実した国試対策 国試対策の取り組み状況の発信 魅力の発信に向けて学校説明会の企画（学校説明会参加者からの声について） 休退学者防止策としてのスケジュール管理（学生自身で考える毎日の学習と過ごし方） 模擬授業：老年看護学	柳 鈴木 高坂 池谷
	医ビ校	入学前事前学習（観光学科） 平成31年度募集状況について 休退学者対策：休学者・退学者を減らす取組（留学生クラス編） 授業見学	森 事務課 坂田 遠藤

【保育部会】

月	内容	発表者
4.5月	ふれあいグループが目指すもの 乳幼児突然死症候群への対応策 感染症対策について 環境整備と衛生管理 感染拡大防止策 食物アレルギー対応策 食育について 教育・保育要領の理解	大屋敷芙志枝 } DVD
6月	平成30年度専門部会別研修会（プログラム別途）	
7.8月	ふれあいグループが目指すもの 絵本の読み聞かせについて学ぶ 防災センターでの学びを共有する 絵画制作（デカルコマニー）を体験する 幼児期の運動に関する指導法 危機管理マニュアル（園バス対応・不審者対応等） 保護者対応（個人面談からの振り返り） 苦情対応（第三者委員） 6S活動（整理・整頓） 各クラスの情報交換（関わりの難しい子の対応・クラスの様子等）	大屋敷 芙志枝 今田 織田、棚町、菅原 入澤 DVD } GW
9.10月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 芙志枝

9.10 月 つづき	保育学セミナー（絵本活動について） 子どもの見方・味方を改めて考える 関わりの難しい園児への対応 園内における感染拡大防止策 環境整備と衛生管理 運動あそびについて 子どもの心の発達を“動作”でサポートする 子どもの SOS に応える（保育の見直し） 新任教員としての学び 学びに向かう力を育む保育・教育 教育要領改訂により新たな保育のあり方を探る 6S 活動（しつけ・作法） 園児募集について	豊島 長江 猪井 DVD DVD 上谷、織田 森本 今田 納戸 菅原、棚町 畠山 GW GW
11.12 月	ふれあいグループが目指すもの 遊び・造形・めまいについて 制作の楽しさを学ぶ 魔法の質問 ことばを食べる子ども達 自然環境の遊び 事故防止対策Ⅰ（園外保育・散歩） 事故防止対策Ⅱ（乳幼児の突然死対応策）保育部門の現状報告 事故防止対策Ⅲ（プール遊び時に対応） 食物アレルギー対応（給食時の現状と対策） 感染症対策 業務改善（保育活動や園児対応について）	大屋敷 芙志枝 織田、棚町、菅原 納戸 猪井 豊島、畠山、上谷 長江 GW DVD・今田 DVD・GW GW DVD GW
2 月	第 15 回ふれあいグループ医療教育研究会（プログラム別途）	
1.3 月	ふれあいグループが目指すもの 保育活動の振り返り（年少・年中・年長） 指導要録の記入法を学ぶ 自己点検表の確認 園内での事故防止対策 年間行事計画の検証 食育について（食物アレルギー対応） 関わりの難しい子の対応 業務改善について	大屋敷芙志枝 DVD 入澤 GW GW GW GW 菅原 GW

平成 30 年度専門部会別研修会（平成 30 年 6 月 17 日（日））

大学部会	発表者
テーマ：湘南医療大学が実践する「主体性・多様性・協働性」を伸ばす教育活動	
①「主体性・多様性・協働性」を伸ばす教育 主体的に学び、考える力の向上～「やらせる学習」「与える学習」からの脱却 その2～	牛田
②「主体性・多様性・協働性」を伸ばす教育 多様性を共有し、他者と協働する力の向上～多様性を尊重する態度と互いのよさを生かす教育～	鶴見
③「主体性・多様性・協働性」を伸ばす教育 知識・技能の活用力の向上～課題解決意識を高めるアクティブラーニングの取り組み～	櫻井
④脳 運動プログラム 回復セラピー	生田
⑤CI セラピーの理論とタナベセラピーの開発	田邊
⑥理念の実践と大学の学風～倫理教育を通じた学生教育～	鶴見
⑦教育倫理	小林
⑧学生募集を目的とした出前授業①	荒木
⑨学生募集を目的とした出前授業②	中尾
⑩公開講座及びグループ施設を活かした職業体験～今年度の方針と目標～	成田
⑪「チーム医療」教育を実践できる人材教育～本学の設置の趣旨・必要性に沿った教育を実施するには～	寺本

教育部会	発表者
テーマ：授業改善を目指して	
①模擬授業①必修問題90%とるための国試対策	野澤
②模擬授業②グループ学習で学ぶ専門分野の国試対策	高橋
③模擬授業③ディベート法	森
④IR の取り組み報告	前川、府川、山田、鈴木

保育部会	発表者
テーマ：乳幼児期の健康管理について	
①乳児から幼児、幼児から小学生へとつながる育ちや学びとは・・・	畠山、森本、納戸
②食について行事を通して子ども達に伝えていく	猪井
③新人研修での学びを保育に活かす	長江
④あそびうたを心の架け橋に	豊島、織田、上谷、菅原、棚町
⑤食中毒における事故防止対策	安田、浅井
⑥睡眠環境とチェック方法について	吉岡
⑦環境整備・衛生管理について	林田
⑧保育現場における事故防止対策	内田
⑧グループディスカッション（園の事例を踏まえて課題提供し、問題解決に繋げる）	GW

第 15 回ふれあいグループ医療教育研究会（平成 31 年 2 月 24 日（日））

大学部会 看護学科 テーマ：平成 30 年度 教育研究報告	発表者
①アルツハイマー型認知症患者の環境適応因子	小原
②認知症高齢者を看護する看護師の経験身体論的観点からの分析	大久保
③ひきこもり当事者のひきこもる要因に関する研究	玉田
④要介護高齢者の主介護者における自己診断によるストレスの特性	相澤
⑤若年層におけるサブカルチャーのコミュニケーション能力への影響に関する文献検討	井上
⑥養護実習における健康相談活動に焦点をあてた学生の学習	稲垣
⑦育児と親の介護の両方を担う女性の育児・介護のとらえ方についての分析	大塚
⑧M.ニューマンの健康理論に基づく寄り添いで現れた患者・家族と看護師の変容～長男との関係に悩む患者が関係を修復したケース～	岡
⑨75歳以上地域在住高齢者におけるフレイルとADL、転倒、うつ傾向、QOLとの関連	笠原
⑩在宅看護学実習における展開のあり方	塚原
⑪女性統合失調症者の性意識の変化	寺戸
⑫子どもの認知発達に合わせた指導教育支援～Wchsler Intelligence Scale for Children を中心に～	弓気田
⑬ワーク・ライフ・バランス施策の現状と課題	吉美
⑭看護基礎教育における模擬患者を活用した教育効果の検討～口腔ケア演習を通して～	遠藤
⑮3剤併用療法の開始に至ったC型肝炎患者の思い	金嶋
⑯在宅看護学実習の施設特性の差異による学生の学び	菊池
⑰看護系大学がFD活動において感じる困難とFD企画実施状況との関連について	櫻井
⑱地域における子ども・子育て支援に関わるボランティア活動の分析～無報酬の利他的行動に関わる要因について～	山崎
⑲脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師の活動実態	荒木
⑳重度身体障害児の在宅ケアにおける家族ストレスと援助期待	長田
㉑介護老人保健施設に勤務する看護職員の運動器看護の実践および連携に関する現状と課題	小林
㉒危険ドラッグ乱用者に関する研究	片山
㉓公衆衛生看護の対象	澤井
㉔ナイチンゲールの女性観	高島
㉕未婚女性の生殖に関する知識と意識の現状	渡邊
㉖地域在宅高齢者のライフスタイルと食習慣～A町高齢者とB市高齢者の比較～	山本
㉗小児病棟・外来看護の一元化に伴う病棟看護師の体験～外来看護に対する戸惑い～	高橋
㉘病いを抱えて生きることと時間間隔について	相馬
㉙生死の苦悩救済に関する文献研究（その3）～看護実践における「話を聞く」意義とその方法について～	鈴木
㉚高齢者ケア施設・事業所に勤務する看護職のエンプロイアビリティ～経験による変化～	牛田
㉛総評	加藤・寺本

大学部会 リハビリテーション学科	発表者
テーマ：平成 30 年度 教育研究報告	
①見学実習における他職種連携教育に対する意識と社会的スキルの変化に関する検討～RIPLS と Kiss-18 による評価～第 4 報	坂上
②通所リハビリテーションを利用する要支援・要介護者の身体活動変化が運動機能に及ぼす影響	長澤
③介護職員による日常生活介助の実態調査～移乗介助に対する学習理論からの検討～	小林
④地域在住軽度認知機能低下者における等尺性膝伸展筋力測定の検者内再現性と妥当性	大森
⑤ヒト錐体路線維数 100 万本の嘘	柴田
⑥6 週間にわたる腹直筋への電気刺激に伴う筋出力の変化について	斉藤
⑦荷重位での膝関節屈曲動作における足部アーチと膝関節の動きの関係	櫻井
⑧高齢心血管疾患患者における身体運動機能と再入院率との関連	森尾
⑨成長期女子サッカー選手における外傷・障害と身体特性との関連性	中尾
⑩肩関節周囲の軟部組織に対する超音波検査の信頼性および臨床現場で用いるための検討	大矢
⑪「平成 30 年 7 月豪雨災害」災害リハビリテーション支援活動報告～JRAT 災害対策東京本部における支援活動の実際と課題～	下田
⑫理学療法士養成校の学生における主観的健康観の特徴	中村
⑬他害行為リスクアセスメントと介入の検討	鶴見
⑭フォーカルジストニアの疼痛と筋緊張以上への介入効果	田邊
⑮認知症高齢者に対する通所リハビリテーションにおける作業療法の成果	竹原
⑯「作業療法管理・運営」授業評価アンケートに関する報告～新カリキュラム改正に伴う対応に向けて～	糊澤
⑰ポータブル脳波計の医療教育的活用について	鈴木
⑱介護予防リハビリテーション評価ツールの開発	猪股
⑲箱作りは生活管理能力を推測する手段として有効か	久保田
⑳発達性読み書き障害に対する「読み」の困難さの支援	須鎌
㉑ダーツスローモーション可動域の測定法開発に向けたパイロットスタディ	光金
㉒壮年期脳卒中中途身体障害者の生活適応過程	西野
㉓作業療法学生に求められる社会性～臨床実習指導者に対する質的調査～	三川
㉔総評	鶴見・橋本

教育部会	発表者
①「介護福祉士の専門性と倫理」理解を深める	佐原
②シミュレーション教育の充実を図る	野澤
③PTOTST 養成施設教員等研修会受講の重要性～受講内容を実践して～	近藤
④認知症患者へのアプローチ	小林
⑤「診療報酬認定試験」取得のための教育プログラム	本間
⑥ソーシャルワークにおける実践理論の最新動向について～レジリエンス指向に寄せて～	扇谷
⑦1・2 年生混合グループによるオープンキャンパスの学生評価	板橋

⑧授業評価の変更による課題提起	柳
⑨作業療法学科の学生募集について	久保田
⑩平成30年度の学生募集状況報告と休退学者の関係（学生募集）	町田
⑪留学生の受入状況について	今村
⑫ふれあい医療福祉研修センター平成30年度事業報告について	稲毛
⑬スコラ手帳の効果	高坂
⑭看護学生の1年次における技術習得に向けての支援	橋田
⑮「入学前事前学習による国家試験対策への影響」結果及び検証	森
⑯教育現場からみた学生と医療現場からみた学生の相違について	石井
⑰実習に対する自己評価の低い学生への対応の工夫	神保
⑱より良い臨床実習実現のための取り組み～報告書作成編～	杉山
⑲基調講演 傾聴について	高橋

保育部会	発表者
①乳幼児突然死（ヒヤリハット等）の対応策	DVD
②感染症対策	DVD
③環境整備と衛生管理	DVD
④睡眠時の安全を守る	井上
⑤睡眠環境とチェック法	伊藤
⑥乳幼児の食事～食物アレルギーと子どもの食事対応～	花田
⑦保育施設における事故防止対策実施後の経過	石田
⑧危機管理マニュアルの検証と共通理解について	澁谷
⑨園外保育・散歩時の事故防止策	今田
⑩保育現場における事故防止対策のその後・・・	山口
⑪災害・避難について考える	菅原
⑫6月の研修会から学んだことからの実践と経過	土屋
⑬新任教員としての学び	納戸
⑭人間関係班で学んだこと	猪井
⑮子どもの見方・味方を考える	長江
⑯言葉を食べることも	上谷
⑰乳児から幼児へつながる保育とは	森本
⑱幼児が主体的に活動できる環境の工夫～表現活動を通して～	島山
⑲学びに向かう力を育む保育・教育	棚町
⑳グループディスカッション 事故防止対策、乳幼児の保育について	GD

V 地域連携・交流活動

行事名	日時	場所	概要
公開講座開催 (全7回開催)	第1回 5月26日(土) 第2回 9月1日(土) 第3回 9月22日(土) 第4回 9月5日(水) ／10月5日(金) 第5回 11月24日(土) 第6回 3月23日(土) 第7回 3月30日(土)	湘南医療大学 湘南医療大学 湘南医療大学 戸塚区ホール ／湘南医療大学 湘南医療大学 湘南医療大学 湘南医療大学	ストレスとうまくつき合ってこころの健康を 認知機能の低下とのつきあい方 「本当はやめたい、でもやめられない」あなたのジレンマは解決できる～健康に活かす行動理論～ 至急お知らせしたい、子宮がんのこと (※ 戸塚区との共催) 100歳まで脳を元気に その咳、注意！ 耳鳴り・難聴とのつきあい方
親子で体験「ワクワクけんこうフェスタ」	平成30年8月19日 (日)	戸塚区役所	主催：戸塚区 内容：こどもの時から健康に関心を持ってもらい、生活習慣病の予防を促進するために、区内の3大学や関係団体、企業等と連携して、測定や体験、セミナー等の企画を実施する。 本学は、看護師体験(簡単な測定)企画と理学療法の体験型ミニセミナーを実施した。
せやこども大学	平成30年8月24日 (金)	瀬谷区役所	主催：瀬谷区 テーマ：マクラメ紐結びにチャレンジ！うさぎ人形とトンボのアクセサリを作ろう！ 参加者：10名
生涯学習フェア	平成30年9月8日(土)	かながわ県民センター	主催：神奈川県 内容：生涯学習の場についての情報提供を行う企画で、本学から事務職員がブース参加し、来訪者からの相談・質問に応じたり、公開講座や認定看護師養成課程についての広報を行った。
ヨコハマ大学まつり	平成30年9月30日 (日)	みなとみらい21地区クイーンズスクエア横浜周辺	主催：ヨコハマ大学まつり実行委員会(横浜市内30大学) 共催：大学・都市パートナーシップ協議会、横浜市 協力：一般社団法人横浜みなとみらい21 協賛：クイーンズスクエア横浜

			<p>内容：「大学・都市パートナーシップ協議会の各大学が一堂に集まり、最先端の教育研究内容と学生のパワーを活かして、みなとみらい21地区から市域全体に新たな魅力の発信を図るとともに、市民の皆様にもっと大学を知っていただき、身近に感じていただく。」の趣旨のもとに実施している。</p> <p>3回目の参加となる今回は、パシフィコ横浜での地域貢献PRパネル展示、及びクイーンズスクエアでの学生イベント会場の案内・警備業務を行った。</p>
--	--	--	---

第4回 湘南医療大学大学祭	平成30年11月23日(金)、11月24日(土)	湘南医療大学	<p>主催：湘南医療大学 大学祭実行委員会</p> <p>テーマ：地域、保護者、高校生の皆様に、学修の成果やサークル活動の様子を紹介に授業で修得した知識・技術を生かした内容を加え開催した。</p> <p>参加者：627名</p>
中学校職業体験	<p>第1回 9月21日(金)</p> <p>第2回 11月22日(木)</p>	<p>湘南医療大学／ふれあい東戸塚ホスピタル</p> <p>湘南医療大学／ふれあい東戸塚ホスピタル</p>	<p>主催：湘南医療大学</p> <p>共催：横浜市戸塚区役所地域振興課</p> <p>内容：戸塚区役所からの要請を受けて、近隣の中学校（舞岡中学校、名瀬中学校）に対し、大学見学及び体験授業を行った。</p> <p>参加者：計10名</p>

VI 湘南医療大学 研究業績

(1) 著書

耳鼻咽喉科診療の進歩、40のエッセンス	医歯薬出版	5月、2018	喜多村 健(分担)
耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術アトラス、第2版	医学書院	5月、2018	喜多村 健(分担)
今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針、第4版	医学書院	6月、2018	喜多村 健(分担)
高齢者のみみ・はな・のど診療マニュアル	全日本病院出版会	11月、2018	喜多村 健(編者)
喘息予防・管理ガイドライン2018	協和企画	2018	橋本 修
薬剤性肺障害診断・治療の手引き[第2版] 2018		2018	橋本 修
COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン2018		2018	橋本 修
喘息とCOPDのオーバーラップ(Asthma and COPD Overlap: ACO)診断と治療の手引き2018		2018	橋本 修
老年看護学 概論と看護の実際 第6版 分担著:第6章Ⅱ-②急性期にある高齢者の看護、③回復期にある高齢者の看護、第6章Ⅲ検査を受ける高齢者の看護	ヌーヴェルヒロカワ	2019年1月	奥野茂代、大西和子監修、百瀬由美子編集 分担著 生田貴子
保健師教育課程における産業保健看護に関する教育体制等の実態	産業衛生学雑誌 (1341-0725)61巻1号 Page16-23	2019年1月	吉川 悦子, 湊井 美奈子, 掛本 知里
公衆衛生看護学概論1	医学書院	平成31年1月6日	著者代表 標美奈子 (6章の一部:山崎 真帆担当)
認知症ライフパートナー検定試験 2級公式テキスト改訂版 第7章 アクティビティの種類と活用 第13節 アロマを用いたかかわり	一般社団法人 日本認知症コミュニケーション協議会	3月、2019	塚原ゆかり
臨床老年看護 特集3フットケアの実践力を高める!	日総研	3月、2019	監修 塚原ゆかり
臨床老年看護 高齢者のフットケア、高齢者の巻き爪ケア、高齢者の足の構造とタコ(胼胝)・魚の目(鶏眼)の関係、高齢者のフットマッサージの方法	日総研	3月、2019	塚原ゆかり
2019版 社会福祉士 過去問完全解説	櫛ユーキャン学び出版	2018年4月20日	柴田昌和、他
2019版 管理栄養士 でる順 ポケット過去問	櫛ユーキャン学び出版	2018年6月29日	柴田昌和、他
エビデンスに基づく理学療法 第2版 「パーキンソン病」	医歯薬出版、東京	2019年1月	内山 靖 編集 共著 長澤 弘
災害リハビリテーション標準テキスト	医歯薬出版	6月、2018	大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(編) 下田栄次(分担)
極める脳卒中の理学療法-エビデンス思考に基づいたアプローチ	文光堂	2018年11月	田邊浩文

(2) 学術論文(原著)

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
Occipital lobe epilepsy was presented in a patients with intracerebral schwannoma: a case report and literature review	International J Neurosci (Online J)	2018年11月22日 (on line)	Ten H, Adachi K, Yamaguchi F, Matsuno A, Teramoto A, Morita A
An intraoperative motor tract positioning method in brain tumor surgery: technical note	J Neurosurg	129:576-582, 2018	Yamaguchi F, Ten H, Higuchi T, Omura T, Kojima T, Adachi K, Kitamura T, Kobayashi S, Takahashi H, Teramoto A, Morita A
解離部からY字型に分岐する前脊髄動脈を温存しinternal trappingを行った破裂椎骨動脈解離の1例	脳卒中	40:185-189, 2018	加藤宏一、比嘉 隆、中野 紘、野村俊介、中川将徳、門山 茂、氏家 弘、寺本 明
エпилプシンとトラスズマブによる心不全が脳塞栓の原因となった1例	脳卒中	40:200-204, 2018	中川将徳、氏家 弘、中野 紘、野村俊介、加藤宏一、比嘉 隆、門山 茂、浅原敏之、寺本 明
嚢胞性下垂体偶発種の治療方針	日本内分泌学会雑誌	94: Suppl(HPT)45-47, 2018	大山健一、廣畑倫生、石井雄道、田原重志、山王なほ子、寺本 明、森田明夫、松野 彰
Increased expression of pendrin in eosinophilic chronic rhinosinusitis with nasal polyps	Braz J Otorhinolaryngol	Aug. , 2018	Ito T, Ikeda S, Asamori T, Honda K, Kawashima Y, Kitamura K, Suzuki K, Tsutsumi T

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
Clinicopathological characteristics of thyroid transcription factor 1-negative small cell lung cancers.	Hum Pathol.	2018; 30: 167-9.	Iida Y, Masuda S, Nakanishi Y, Shimizu T, Nishimaki H, Takahashi M, Hikichi M, Maruoka S, Gon Y, Takahashi N, Hashimoto S.
Long-term course of serum total and free IgE levels in severe asthma patients treated with omalizumab.	Allergol Int.	2018 Apr;67(2):283-285.	Gon Y, Ito R, Maruoka S, Mizumura K, Kozu Y, Hiranuma H, Iida Y, Hikichi M, Shikano S, Hashimoto S.
Combined Assessment of Serum Periostin and YKL-40 May Identify Asthma-COPD Overlap.	J Allergy Clin Immunol Pract.	2018 Jul 6. pii: S2213-2198(18)30416-1	Shirai T, Hirai K, Gon Y, Maruoka S, Mizumura K, Hikichi M, Holweg C, Itoh K, Inoue H, Hashimoto S.
ペパシズマブでの肺癌化学療法中に発症した急性肺血栓塞栓症の一例	日大医学雑誌.	2018 ;77: 267-270	野本 正幸, 浅井 康夫, 森田 博之, 福田 麻佐美, 山田 志保, 深井 有美, 林 健太郎, 佐藤 良博, 大木 隆史, 清水 哲男, 高橋 典明, 橋本 修
肺大細胞癌に直腸癌, 結腸癌および早期胃癌を併発した同時性4重複癌の一例.	日大医学雑誌.	2018; 77: 169-173	福田 麻佐美, 浅井 康夫, 野本 正幸, 山田 志保, 永田 弥人, 西澤 司, 深井 有美, 畑岡 つかさ, 大木 隆史, 清水 哲男, 高橋 典明, 橋本 修 .
肺線維症による縦隔気腫と気腹症の1例	日大医学雑誌.	2018; 77: 185-188	永田 弥人, 赤羽 目 翔悟, 西澤 司, 蓮見 禎行, 辻野 一郎, 小川 克彦, 鈴木 裕, 橋本 修 , 相馬 正義.
大胸筋転移で発見された肺腺癌の一例.	日大医学雑誌	2018; 77: 189-192	西澤 司, 飯田 由子, 永田 弥人, 深井 有美, 畑岡 つかさ, 林 健太郎, 佐藤 良博, 浅井 康夫, 大木 隆史, 清水 哲男, 丸岡 秀一郎, 高橋 典明, 橋本 修 .
テキストマイニングを利用した統合失調症者と暮らす家族の語りの全体像	日本精神科看護学術集会誌 60巻2号 Page195-199	2018年10月	井上 喬太, 西田 大介, 平井 孝治, 川村 晃石
思春期・青年期の子供の摂食障害傾向と関連する要因の検討	日本精神科看護学術集会誌 60巻2号 Page299-303	2018年10月	平井 孝治, 井上 喬太, 平井 宏美
学生の精神看護学への関心に影響する実習での教員の接し方と学びの現状	看護教育研究学会誌 (1883-2822)10巻2号 Page57-64	2018年12月	川村 晃石, 十倉 絵美, 井上 喬太, 小西 奈美, 松本 賢哉
精神科閉鎖病棟における禁煙支援の現状に関する文献検討	京都橋大学研究紀要 (1883-0307)45号 Page161-171	2019年2月	川村 晃石, 十倉 絵美, 井上 喬太, 小西 奈美, 松本 賢哉
神奈川県立特別支援学校における知的障害児への関わり第2報 学校知的評価表の活用状況について	理学療法 科学と研究 第47巻 pp57-64	2019年3月	本杉直子, 鈴木 茂, 島田 路, 田尻 晴美, 鶴見 隆正
大腿二頭筋長頭と腓腹筋のレバーアーム特性が膝関節屈伸運動へ与える影響	バイオメカニズム学会誌	2018年8月	柴田 昌和, 他
The Relationship between Walking Speed and Step Length in Older Aged Patients	Diseases	2019, 7(1), 17	Morio Y , Izawa KP, Omori Y , Katata H, Ishiyama D, Koyama S, Yamano Y
高齢者での棘上筋腱, 肩峰下滑液包と上腕二頭筋長頭腱の肥厚変化-超音波検査を用いて-	日本保健科学学会誌	2018年9月	大矢 颯久, 山田 拓実
維持期脳血管疾患におけるエンドエフェクター型歩行補助ロボットが歩行に与える影響	理学療法科学	33(2):301-305, 2018	中村 壽志, 小貫 睦巳, 山崎 尚樹, 田中 一秀
拮抗失行症例に対する(対する)動作の細分化と聴覚・視覚的フィードバックを用いた更衣動作獲得に向けた関わり	日本作業療法研究会雑誌	2018年8月	鈴木 雄介 , 生田 宗博
手関節矯正装置	実用新案登録証 第3217962号	2018年6月	生田 宗博
Application of a Robotic Rehabilitation Training System for Recovery of Severe Plegic Hand Motor Function after a Stroke	intechopen	2018年10月	Hirofumi Tanabe, Munehiro Ikuta , Toshimasa Mikawa, Akihiko Kondo and Yoshifumi Morita
慢性片麻痺患者に対するtanabe therapyの即時効果の検討～予備的研究～	作業療法福岡	2019年3月	近藤 昭彦, 田邊 浩文
Test-retest reliability of goniometric measurements of the range of dart-throwing motion	J phys ther sci31	2019年3月	Masahiro M, Hirofumi T , Kosuke S, Yusuke S, Takahiko T
Test-retest reliability of giniometric measurements of the range of dart-throwing motion	The Journal of Physical Therapy Science .Vol31, No3,2019 (236-241)	2019年3月	光金 他 共著
拮抗失行症例に対する動作の細分化と聴覚・視覚的フィードバックを用いた更衣動作獲得に向けた関わり	日本作業療法研究会雑誌 21(1),pp.37-41,2018.	2018年8月	鈴木 雄介 , 生田 宗博
Effects of mirror therapy on the reacquisition of motor imagery in patients with a hand orthopaedic injury	Cogent Medicine 5(1), 1520469, 2018.	2018年9月	Yusuke Suzuki , Toshimasa Mikawa , Munehiro Ikuta

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
Test retest reliability of goniometric measurements of the range of dart-throwing motion	Journal of Physical Therapy Science 31,pp.236-241,2019.	2019年3月	Masahiro Mitsukane, Hirofumi Tanabe, Kosuke Sugama, Yusuke Suzuki, Takahiko Tsurumi
介護予防リハビリテーション評価ツールの開発 グループインタビューによる評価の項目と枠組みの調査	OTジャーナル	(査読中)	猪股英輔、竹中佐江子、吉田慎太郎、竹原敦
Test-retest reliability of goniometric measurements of the range of dart-throwing motion.	Journal of Physical Therapy Science	2019 Mar;31(3):236-241	Mitsukane M, Tanabe H, Sugama K, Suzuki Y, Tsurumi T.

(3) その他の学術論文

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
Nelson症候群	別冊日本臨床 内分泌症候群(第3版) I	2018年9月30日	杉山 誠、寺本 明
小児急性中耳炎診療ガイドライン2018年版-改訂のポイント	日耳鼻感染症エアロゾル会誌	1月、2019	林 達哉、宇野芳史、喜多村 健、工藤典代、澤田正一、泰地秀信、高橋吾郎、高橋晴雄、橋本 省、保富宗城、矢野寿一
Asthma and COPD overlap pathophysiology of ACO	Allergol Int.	2018 Apr;67(2):179-186	Hikichi M, Hashimoto S, Gon Y
Asthma and COPD Overlap.	日本内科学会雑誌	2018; 107: 1083-1089.	引地麻梨、橋本 修、権 寧博.
Updated information on Asthma, COPD and ACO.	Pharma Medica	2018	引地麻梨、橋本 修.
高齢者の余暇支援について教える・学ぶ	臨床老年看護	25(4)、107-112、2018	牛田貴子
高齢者の急変について教える・学ぶ	臨床老年看護	25(6)、96-101、2018	牛田貴子
本との話『『会話分析でわかる看護師のコミュニケーション技術』(川野雅資 著)』	精神科看護2019年3月号 vol.46/通巻318号	3月、2019	片山典子
公衆衛生看護学教育モデル・コア・カリキュラム(2017)の構築と狙い	保健師ジャーナル (1348-8333)74巻7号 Page596-601	2018年7月	野村 美千江、澤井 美奈子、鈴木 知代、當山 裕子、鳩野 洋子、宮崎 紀枝、佐伯 和子
在宅高齢者の地域力を活かした介護予防プログラムの試み	日本看護科学学会誌	掲載予定	菊池有紀、葉袋淳子
助成研究報告 学校救急看護のコアコンピテンシーの検討(中間報告)(第2報)インタビュー調査から	学校救急看護研究 = Studies in school emergency nursing 12(1) p.63-70	2019年3月	砂村 京子、荻津 真理子、高橋 朋子、安藝 敦子、稲垣 尚美、藤嶋 祥子、湯原 裕子、渡辺 美恵、関 健介、妻鹿 智晃
手で感じ取り、頭で解釈し、心を読み解き、そしてアクション	理学療法ジャーナル 52巻 PP.711-715	2018年8月	鶴見 隆正
心血管疾患患者の長期予後に対する身体運動機能の関わりについての研究(学位論文)	筑波大学大学院博士後期課程 人間総合科学研究科生涯発達科学専攻 博士論文(リハビリテーション科学)	3月、2019	森尾裕志
下肢慢性創傷患者の創傷治癒と歩行能力維持へのかかわり	作業療法ジャーナル	52(7):636-642、2018	河辺信秀、渡部祥輝、山崎尚樹、中村壽志
糖尿病患者の足部と歩様の特徴: 予防的リハビリテーションの観点から	月刊糖尿病	10(5):78-87、2018	河辺信秀、渡部祥輝、中村壽志
触法障害者等への支援と今後の方向性 -作業療法士の司法分野への貢献と人材育成の観点から-	作業療法ジャーナル Vol53 No2 (108-114)	2019年 2月	三川共著
脊髄性筋萎縮症の診断と治療の進歩	北海道作業療法	35巻4号・2018年12月	館延忠、須藤康介、仙石泰仁

(4) 報告書

論文タイトル	掲載誌	掲載月	氏名
「青年期統合失調症者の臨界期における訪問看護師の教育プログラムの開発」	科研費補助金:基盤研究(C)	6月、2018	片山典子
「『看護管理者用SOC(首尾一環感覚)向上プログラム』の開発とその有用性の検証」	科研費補助金:基盤研究(C)	6月、2018	松下年子(研究代表者) 片山典子(研究分担者)
小児がんの子どものきょうだい支援に関する看護介入プログラムの開発	平成26~30年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書	平成31年3月	野中淳子(研究代表者) 山崎真帆(研究協力者)

論文タイトル	掲載誌	掲載月	氏名
介護老人保健施設での介護職員指導に関する研究—行動分析学の枠組みによる介助指導—	科学研究費助成事業データベース(2017年度 研究成果報告書)URL (https://nrid.nii.ac.jp/nrid/1000060310190/)	公開日:2019-03-29	小林和彦
良い姿勢、良い人生 (特集記事監修)	Life(健康情報誌)3月号	3月,2019	下田栄次
いつまでも軽やかに動くために鍛えたい筋肉は“大臀筋・中臀筋・腓腹筋”(特集記事監修)	からだ想い(健康情報誌)3月号	3月,2019	下田栄次
良い姿勢、良い人生 (特集記事監修)	Life(健康情報誌)3月号	3月,2019	下田栄次
いつまでも軽やかに動くために鍛えたい筋肉は“大臀筋・中臀筋・腓腹筋”(特集記事監修)	からだ想い(健康情報誌)3月号	3月,2019	下田栄次
福祉介護-特集-筋緊張を緩和させる	テクノプラス11月号,pp.20-25	2018年11月	田邊浩文

(5) 学会発表

演題	学会名	発表月	氏名
医術開業後期試験の臨床実験問題と当時の時代背景について	第119回日本医史学会総会	2018年6月2日(鹿児島)	志村俊郎、都倉武之、寺本 明
下垂体外科の歴史と世相(特別講演)	第29回日本間脳下垂体腫瘍学会	2019年2月22日(大阪)	寺本 明
Long-term complications of bone-anchored hearing aids: a 15-year experience with 35 implants in Japan	17th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery	April, 2018	Kawashima Y, Noguchi Y, Takahashi M, Takeda T, Maruyama A, Fujikawa T, Ito T, Kitamura K, Tsutsumi T
The asymmetry of the activity of auditory areas with the auditory stimulation in healthy volunteers~From fMRI	6th East Asian Symposium on Otology, Seoul	May, 2018	Yamamoto K, Li Tianjiao L, Kurata J, Kitamura K, Tsutsumi T
Application of droplet digital PCR to determine copy number variation of STRC in mild to moderate hearing loss	6th East Asian Symposium on Otology, Seoul	May, 2018	Ito T, Noguchi Y, Kawashima Y, Fujikawa T, Kitamura K, Tsutsumi T
小児急性中耳炎診療ガイドライン委員会。小児急性中耳炎診療ガイドライン-2006年版から2018年版までの作成からみた急性中耳炎の原因菌、薬剤感受性、治療法の変遷-	第34回御茶ノ水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会	7月,2018	喜多村 健
当院における高齢者の人工内耳症例の検討	第28回日本耳科学会総会学術講演会	10月,2018	渡邊浩基、石田克紀、峯川 明、吉川紗耶花、喜多村 健、坂井 真
当科における弛緩部型真珠腫新鮮例の検討	第28回日本耳科学会総会学術講演会	10月,2018	峯川 明、石田克紀、渡邊浩基、吉川紗耶花、喜多村 健、坂井 真
一側性難聴に対する骨固定型骨導補聴器(Bone-Anchored Hearing Aid:BAHA)の一症例	第28回日本耳科学会総会学術講演会	10月,2018	石田克紀、喜多村 健、峯川 明、渡邊浩基、吉川紗耶花、坂井 真
補聴器と人工内耳(Cochlear Implant:CI)装着時の聴取能の比較検討	第63回日本聴覚医学会総会・学術講演会	10月,2018	山田隆幸、石田克紀、渡邊浩基、峯川 明、喜多村 健
健常者の聴覚刺激における聴覚野の非対称性について fMRI研究より	第63回日本聴覚医学会総会・学術講演会	10月,2018	山本 桂、喜多村 健、堤 剛
耳硬化症の側頭骨CTにおける内耳道前壁憩室様所見の陽性率と臨床像の検討	第35回御茶ノ水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会	12月,2018	倉田奈都子、川島慶之、伊藤 卓、藤川太郎、竹田貴策、大岡知樹、野口佳裕、喜多村 健、堤 剛
Xolair導入後の血清総IgEなどの推移.	第67回日本アレルギー学会学術大会.	2018年6月	森本千絵、松本久子、田尻智子、鈴木真穂、出原裕美、權 寧博、伊藤玲子、橋本 修、出原賢治、太田昭一郎、小野純也、大田 健、金光禎寛、長崎忠雄、小熊 毅、伊藤功朗、新実彰男、平井豊博
The Employability of Nurses at Long-team Care Services: Change by experiences	The 5th China Japan Korea Nursing Conference	Sep.2018	Takako Ushida
神奈川県における看護師養成機関教員の勤務実態調査(第3報)	第20回神奈川県看護教育フォーラム	2019年3月	神尾千春、島田真由美、熊谷奈穂、生田貴子ほか
「看護基礎教育におけるアディクション看護の教授—事例を通じての検討—」	第28回日本看護学教育学会学術集会(横浜市)	8月,2018	松下年子、 <u>片山典子</u> 、他
「看護管理とアディクション」	第17回日本アディクション看護学会学術集会(長崎県)	9月,2018	松下年子、 <u>片山典子</u> 、他
「若年層におけるサブカルチャーのコミュニケーション能力への影響に関する文献検討」	第17回日本アディクション看護学会学術集会(長崎県)	9月,2018	松下年子、 <u>片山典子</u> 、他
「バイオ・テロリズムに対する保健師の準備態勢(Preparedness)」に関する英文献の概念分析	第7回日本公衆衛生看護学会学術集会	2019年1月27日	鈴木良美、澤井美奈子、石田千絵、呉珠響
未婚女性の生殖に関する知識と意識の現状	第59回日本母性衛生学会学術集会(新潟)	10月,2018年	渡邊知佳子

演題	学会名	発表月	氏名
A貯筋教室の参加高齢者が捉える支えられるべき高齢者の特徴	日本在宅ケア学会	2018年7月	菊池有紀・葉袋淳子・相内恵津子
A地区の高齢者の介護予防活動への参加状況とソーシャルサポート・ネットワークについて	日本看護科学学会	2018年12月	菊池有紀
若年層におけるサブカルチャーのコミュニケーション能力への影響に関する文献検討	日本アディクション看護学会 学術集会	2018年9月	井上喬太、浅野泰貴、片山典子
模擬事例で行うシミュレーション勉強会の効果—参加した看護師の評価から—	第33回日本がん看護学会学術集会(福岡)	2月、2019	岡 多恵
特別講演: 理学療法士界の「来し方」からの学びと飛躍	専門リハビリテーション研究会 第18回学術大会	2018年6月30日	鶴見隆正
ダ・ヴィンチから学ぶ医学 〜リハビリテーションと解剖学からみる体のしく〜	専門リハビリテーション研究会	2018年7月1日	柴田昌和
高齢社会におけるリハビリテーション・マインドの視点	専門リハビリテーション研究会 第18回学術大会	2018年6月	講演司会 長澤 弘
2041年から考える医療と介護—マンパワー問題を中心に—	平成31年度日本大学理学療法 学教育学会 日本理学療法 士教員協議会	2018年11月	講演座長 長澤 弘
高齢心疾患患者における身体運動機能と再入院の関係について	専門リハビリテーション研究会 第18回学術大会(静岡)	7月、2018	森尾裕志、大森圭真、堅田紘頌、石山大介、 小山真吾、川間健之介
神奈川県における災害時リハビリテーション支援体制の構築 に向けて—かながわJRATの取り組み—	第84回神奈川リハビリテ ーション研究大会	4月、2018	下田 栄次、西 則彦、君島 恵、松本 卓、荒 川 英樹
災害と理学療法—支援から自立へ—第二期: 応急修復期の対応 (招待講演)	第53回日本理学療法学術研 修大会	5月、2018	下田栄次、丸山真範
登山教室に参加した受講者アンケートからみた課題と展望— 登山医学領域における予防の取り組み—	第5回予防理学療法学会	10月、2018	下田栄次、松田梓、蛭田啓介、澤田敦
The assignments brought from the questionnaire regarding interprofessional working in disaster—Comparing the rehabilitation therapists with public health nurses—	The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine	Japan, sep, 2018	Eiji Shimoda, Azusa Matsuda, Keisuke Hiruta
座位中心の就労者における生体センシング技術を応用した 運動指導の試み	第46回日本バイオフィード バック学会	2018年6月	小貫睦巳、中村壽志、山崎尚樹、田中一秀
ヘッドマウントディスプレイを用いた動画視聴によるホーム プログラムの実施が身体機能および実施率に与える影響につ いて	第4回日本予防理学療法学 会	2018年7月	山崎尚樹、小貫睦巳、中村壽志、田中一秀
脳卒中片麻痺上肢に対するUR-System 2.3によるトレーニ ングの即時効果検証	日本機械学会ロボティクス・メ カトロニクス講演会	2018年6月	小塚高史、杉山広樹、服部仁美、森田良文、 田邊浩文
脳卒中片麻痺患者の自主起立トレーニングのための支援ロ ボット—腰部誘導のための誘導制御法および妥当性検証—	日本機械学会ロボティクス・メ カトロニクス講演会	2018年6月	米澤拓未、森田良文、井尻隆文、北村瑞紀、 田邊浩文、齋藤大耀、小林幸雄
Development of finger therapy techniques to restore motor function in severely paralyzed hands and therapeutic devices imitating these techniques	12th Conference on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology Society of Korea 2018	2018年11月	Hirofumi Tanabe, Yoshifumi Morita
Comparison between a piston finger technique device and stretching treatment for spastic paralysis of fingers	12th Conference on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology Society of Korea 2018	2018年11月	Nguyen Thi Kieu Chinh, Hirofumi Tanabe, Kenji Ooka, Yoshifumi Morita, Yukio Kobayashi, Takafumi Ijiri
Development of a Facilitation Device for Finger Extensors in Hand Movement Function Recovery Training in Hemiplegic Stroke Patients	12th Conference on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology Society of Korea 2018	2018年11月	Zhao Yue, Hirofumi Tanabe, Da Shuhan, Yoshifumi Morita
手指痙性麻痺の減弱のための治療デバイスの効果検証およ び肘と肩の痙性麻痺に与える影響についての考察	第19回計測自動制御学会シ ステムインテグレーション部門 講演会	2018年12月	大岡賢二、Nguyen Thi Kieu Chinh、森田良 文、田邊浩文、小林幸雄、井尻隆文
介護予防リハビリテーション評価ツールの開発	第52回 日本作業療法学会	2018年9月	猪股英輔、竹原 敦、竹中佐江子、吉田慎太 郎
地域活動で社会貢献！を語ろう(シンポジウム)	第15回 東京都作業療法学会	2018年7月	猪股英輔
How the community-dwelling elderly in Tokyo adapt to life after stroke focused on actions: Underlying processes in building a satisfying life	17th World Federation of Occupational Therapists Congress 2018, Cape Town, South Africa	2018年5月24日	西野由希子
「当事者の生きやすさを追求する共にある場」をつくる作業的 要素——わっぱの会と当事者研究会の取り組みの比較検討 からの一考察」	障害学会第15回大会・2018	2018年10月18日	田島明子、谷口起代、西野由希子

(6) 研究補助金等外部資金の受入れ状況

代表者名	研究課題	助成元
牛田 貴子	介護保険施設等に勤務する看護師のエンプロイアビリティに関する研究	日本学術振興会科研費:基盤研究C
(研究分担者) 田邊 浩文	脳卒中片麻痺上肢のテーラーメイド・ニューロリハビリロボット	日本学術振興会:基盤研究C
菊池 有紀	在宅高齢者の地域力を活かした介護予防プログラムの活用と検証	日本学術振興会:若手研究B
(研究分担者) 笠原 順子	アジア地域における高齢者のフレイルに関する複合的研究	日本学術振興会:基盤研究C
小林 優子	『女子高校生の子宮頸がん予防行動に関する心理社会的要因』	日本学術振興会:学術図書
金嶋 祐加	C型肝炎と診断された患者の療養生活における看護師に求められる支援	日本学術振興会:基盤研究C
弓気田 美香	小児アレルギーエドゥケーターの活動とその効果	日本学術振興会:基盤研究C
片山 典子	青年期統合失調症者の臨界期における訪問看護師の教育プログラムの開発	日本学術振興会:基盤研究C
(研究分担者) 上野 まり	独立型訪問看護ステーション看護師による精神障害者の退院直後集中支援モデルの開発	日本学術振興会:基盤研究C
(研究分担者) 澤井 美奈子	テロリズムに対する保健師の準備態勢に関するコンピテンシー・モデルの開発	日本学術振興会:基盤研究C
西野 由希子	地域生活する男女の壮年期中途身体障害者の生活適応モデルの構築	日本学術振興会:スタート支援
森尾 裕志	在宅においても実施可能である棒またぎ体操が歩幅、運動耐容能に与える効果の検証	日本学術振興会:基盤研究C
鈴木 雄介	外傷性脳損傷官舎の社会的行動障害への対応方法に関する研究:家族回代表の視点から	日本学術振興会:若手研究
玉田 聡史	思春期のひきこもり親和性群の心理社会的要因とSNS利用の関連	日本学術振興会:若手研究
森尾 裕志	在宅高齢者が実施可能な棒またぎ体操の開発	日本理学療法士学会: 理学療法にかかわる研究助成
下田 栄次	災害理学療法と災害リハビリテーション支援に関する理学療法士の意識調査	公益社団法人神奈川県理学療法士会:助成金
玉田聡史(研究代表者) 片山典子(共同研究者)	「大学生のスマートフォン利用とひきこもり親和性の関連に関する研究」	日本精神保健看護学会:研究助成事業

Ⅶ 生涯学習事業

系統	看護系			介護系				
	看護師実習指導者講習会	認知症看護研修	認定看護師養成課程(認知症看護分野)	介護職員初任者研修	介護福祉士実務者研修	喀痰吸引等研修	介護福祉士国家試験対策講座	介護福祉士実習指導者講習会
期日	H30.8月～11月	H30.8/21,8/27	H30.6月～H31.3月	第1回：H30.5月～9月 第2回：H30.11月～H31.3月 町田校：H30.7月～H31.1月	H30.2月～7月 H30.4月～9月 H30.7月～12月	H30.11月～H31.2月	H30.10月～11月	H30.8.1、8.8、8.15、8.22
日数	243時間	2日	665時間	17日(講義15日、実習2日)	6ヶ月	10日(講義8日、演習1日、実習1日)	3日	4日
場所	湘南医療大学	湘南医療大学	湘南医療大学	講義：研修センター 実習：湘南シルバーガーデンほか	講義：研修センター 医療的ケア：研修センター 医療的ケア実習：茅ヶ崎 新北陵病院ほか	講義：研修センター 演習：研修センター 実習：茅ヶ崎新北陵病院ほか	研修センター	研修センター
定員	20名	20名	15名	20名×3	30名×3	15名	15名	20名
H30実績	18名	14名	※H30新規事業	第1回：20名 第2回：15名 町田校：13名	第1回：19名 第2回：19名 第3回：18名	12名	24名	8名
取得資格	看護師実習指導者講習会修了	認知症看護研修修了	認定看護師教育課程修了	介護職員初任者研修修了	介護福祉士国家試験受験資格	喀痰吸引等研修修了	—	介護福祉士実習指導者講習会修了

系統	社会福祉系			事務系	
	社会福祉専攻科(通信)	社会福祉士実習指導者講習会	社会福祉士国家試験対策講座	医療事務講座(初級)	医療事務講座(中級)
期日	毎年4月～翌年9月末	H31.2月	H30.7月～12月	H30.8～H31.1	H30.10～H31.2
日数	1年6ヶ月	2日	10日	6ヶ月	12日
場所	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター
定員	80名	20名	30名	20名	20名
H30実績	1年生：61名 2年生：56名	15名	23名	22名	24名
取得資格	社会福祉士国家試験受験資格	社会福祉士実習指導者講習会修了	—	ふれあい医療事務管理士(初級)	ふれあい医療事務管理士(中級)

看護系研修は、湘南医療大学にて認定看護師養成講座（認知症看護分野）を新たに開講し定員15名を充足させ、全員修了した。看護師実習指導者講習会は4年目を迎え、18名が修了した。

介護系研修は、初任者研修の開催回数を見直し、年間2回、週1回のスクリーングとして、働いている方が受講しやすい日程としたところ、定員の7割以上の受講数となった。引き続き、ふれあいグループ職員への受講促進活動や、地域での広報活動を続け、2019年度は定員充足できるようにする。介護福祉士実務者研修は国家試験受験者が34名合格者30名合格率88.4%（全国平均73.7%）とすることができた。2019年度は、現医療ビジネス観光福祉専門学校の付帯教育事業となる。

社会福祉系研修は、国家試験対策講座にてフォローし、全国平均（29.9%）を大きく上回る51.1%と高い合格率とすることができた。

いずれの研修についても次年度以降も引き続き、受講生の定員充足と学習支援体制として、国家試験対策講座も併せて開講計画をたてる。

学校法人湘南ふれあい学園 規程一覧

○共通

No.	規程名	制定日	決定1	承認日	直近改正日
1	就業規則	H3.4.1、実施	H26.1.8、規程会議済	職員代表	H30.3.16、一部改正
2	就業規則(非常勤職員)	H16.12.16、実施		職員代表	H30.4.1、一部改正
3	慶弔金規程	H4.1.4、実施	人事	人事	H25.1.1、一部改正
4	非常勤講師に関する規程	H27.4.1、制定	H27.2.6、規定会議済	H27.2.18 理事会済	
5	教職員給与規程	H6.1.1、実施	H26.1.15、規程会議済	職員代表	H29.9.16、一部改正
6	退職金規程	H3.3.4、実施	H26.1.8、規程会議済	職員代表	H26.4.1、一部改正
7	役員報酬規程	H27.4.1、制定		理事長改廃	
8	役員退職金支給規程	H27.4.1、制定	H26.8.18、規程会議済	H27.2.18 理事会済	
9	育児休業規程	H4.4.1、適用	法令	職員代表	H29.10.1、一部改訂
10	介護休業規程	H15.9.1、適用	法令	職員代表	H29.1.1、一部改訂
11	事務組織及び事務分掌に関する規程	H26.4.1、制定	H26.5.12、規程会議済	H27.9.8 運営会議済	H27.4.1、一部改正
12	顧問規程	H26.4.1、制定		理事長改廃	
13	稟議規程	H26.4.1、制定	H26.1.8、規程会議済	H26.11.26 理事会済	
14	監事監査規程	H6.4.1、制定	H26.3.12、規程会議済	理事会	
15	内部監査規程	H27.4.1、制定	H26.8.18、規程会議済	H27.2.18 理事会済	
16	経理規程	H16.4.1、施行	H26.3.12、規程会議済	H27.1.21 理事会済	H30.4.1、一部改正
17	寄附金等取扱規程	H25.10.10、制定		理事会	H25.10.10、一部改正
18	資産運用規程	H22.4.1、制定	H26.6.4、規程会議済	理事長改廃	
19	国内出張旅費規程	H17.10.1、施行	H26.1.8、規程会議済	理事長改廃	H29.4.1、一部改正
20	赴任旅費支給規程	H17.5.1、制定	人事	人事	
21	学会・研修会等参加規程	H27.4.1、制定	H26.1.8、規程会議済	理事長改廃	H29.11.1、一部改正
22	固定資産及び物品管理規程	H26.4.1、制定	H26.6.4、規程会議済	理事長改廃	
23	公印取扱規程	H26.4.1、制定	H26.2.5、規程会議済	理事長改廃	
24	文書管理規程	H22.4.1、施行	H26.2.5、規程会議済	H26.11.26 理事会済	H26.4.1、一部改正
25	文書取扱規程	H24.4.1、施行	H26.2.5、規程会議済	H26.11.26 理事会済	H26.4.1、一部改正
26	図書管理規程	H27.4.1、制定	H27.1.19、規程会議済	H27.1.21 理事会済	
27	個人情報管理規程	H17.4.1、施行	H26.6.4、規程会議済	H27.2.18 理事会済	H29.7.19、一部改正
28	情報公開規程	H17.4.1、施行	H26.5.12、規程会議済	H27.2.18 理事会済	H27.4.1、一部改正
29	公益通報に関する規程	H27.4.1、制定	H26.1.22、規程会議済	H27.2.18 理事会済	
30	学生寮規程 (旧室田寮規程)	H27.4.1、制定		H27.1.21 理事会済	H30.4.1、室田寮規程改正
31	セクシャルハラスメントに関する規程	H21.2.1、制定		職員代表	
32	講演、寄稿等の職員外部活動規程	H20.8.1、制定		改廃の記載なし	
33	看護師養成所専任教員養成講習会受講資金貸与規則	H24.4.1、施行		H26.11.26 理事会済	H26.4.1、一部改正
34	看護教員研修貸付金制度規程	H20.12.1、制定		改廃の記載なし	
35	転校等に伴う入学検定料・入学金免除規程	H20.3.28、制定		理事会	
36	湘南ふれあい学園 学生慶弔見舞規程	H17.8.31、制定		H25.11.25理事長決裁	H27.11.25、一部改正
37	名刺管理規程	H28.7.1、施行		理事長改廃	
38	貸室利用規程	H29.1.1、制定		理事長決定	
39	実習謝礼金支払規程	H29.1.1、制定		理事長決定	H30.10.1一部改正
40	非常勤講師報酬等規程	H29.1.1、制定		理事長決定	
41	特定個人情報取扱規程	H30.4.1、制定		理事長決定	
42	服装に関する規程	H31.4.1施行	H30.9.28、伺い書	理事長決定	

VIII 施設の状況

平成 31 年 3 月現在 学校法人所有施設の所在等

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地・学校名	校地(m ²)	施設等	面積(m ²)	摘要
横浜市戸塚区汲沢2丁目26番14号 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	2,306.00	園舎	1,176.69	自己所有
茅ヶ崎市今宿390番地 他 茅ヶ崎看護専門学校	12,459.64	校舎 倉庫	12,190.12	自己所有
茅ヶ崎市南湖1丁目6番11号 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	3,752.04	校舎	5,725.54	自己所有
相模原市南区上鶴間本町3丁目18番27号 医療ビジネス観光情報専門学校	1,106.50	校舎	4,360.56	自己所有
下田市柿崎289番地 他 下田看護専門学校	5,538.78	校舎 学生寮	4,982.12	自己所有
横浜市戸塚区上品濃16番48号 他 湘南医療大学	15,803.64	校舎	15,313.84	校地 (自己所有/一部借地) 校舎 (自己所有/一部借用)

IX 財務状況

(1) 決算の概要

○貸借対照表の状況

総資産額は、16,353百万円で前年度に対して4,657百万円の増加、負債総額は4,854百万円で前年度に対して1,920百万円の増加となりました。総資産額の増加は、茅ヶ崎看護専門学校書庫兼倉庫建物用地取得による固定資産の増加、及び現預金400百万円の増加によるものです。

また、負債額1,920百万円の増加は、前述の建物用地購入のための長期借入金によるものです。

○資金収支計算書

収入の部：学生生徒等納付金収入は、湘南医療大学の学年進行による学生数の増加により前年度に対して約219百万円増収の約2,294百万円となりました。また、寄付金収入は、教育環境整備等充実資金として73百万円、受配者指定寄附金として、195百万円の受入れによります。補助金収入は、約191百万円、前述の建物用地購入による借入金収入2,000百万円、及び前年度繰越支払資金約3,276百万円などの要因により、資金収入の合計は、8,212百万円となりました。

支出の部：人件費支出は、各校の教員欠員補充等の増加分で、前年度から53百万円の増加となり、1,261百万円となりました。また、教育研究経費支出は、前年に対して24百万円増加し480百万円となりました。管理経費支出は、前年に対して66百万円増加し、332百万円となりました。

翌年度繰越支払資金：上記の結果、法人全体として翌年度繰越支払資金は、3,677百万円となり、期首に比べて400百万円増加となりました。

○事業活動収支計算書

事業活動収入：学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、事業収入、雑収入等は、資金収支計算書収入の部と同様の要因により、5,175百万円となり、前年度に対して2,365百万円の増加となりました。

基本金組入額合計は、茅ヶ崎看護専門学校書庫兼倉庫建物用地の購入、年次計画による大学の校舎・備品等の組入と借入金返済に伴う組入により2,621百万円となりました。よって、基本金組入前当年度収支差額(帰属収入)は、2,736百万円の収入超過となりました。

事業活動支出：資金収支計算書の支出の部と同様の要因で、前年度に対して人件費は、54百万円の増加で1,271百万円(人件費比率46.89%)となりました。また、教育研究経費は、前年度に対して31百万円の増加で749百万円(教育研究経費比率27.59%)、管理経費は、前年度に対して78百万円の増加となり、372百万円(管理経費比率13.71%)となりました。

当年度収支差額：当年度収支差額は、115百万円となりました。

(2) 経年比較

① 貸借対照表

(単位：円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
固定資産	7,697,166,872	7,641,192,048	8,011,782,935	12,276,208,968
流動資産	3,159,400,019	3,568,487,677	3,684,283,050	4,077,688,073
資産の部合計	10,856,566,891	11,209,679,725	11,696,065,985	16,353,897,041
固定負債	1,625,728,098	1,537,468,492	1,444,027,607	3,319,643,547
流動負債	1,192,543,123	1,460,487,006	1,489,908,193	1,535,230,331
負債の部合計	2,818,271,221	2,997,955,498	2,933,935,800	4,854,873,878
基本金の部合計	8,373,967,900	8,529,180,031	9,361,488,426	11,982,519,945
翌年度繰越収支差額の部合計	▲ 335,672,230	▲ 317,455,804	▲ 599,358,241	▲ 483,496,782
純資産の部合計	8,038,295,670	8,211,724,227	8,762,130,185	11,499,023,163
負債の部、基本金の部及び消費税収支差額の部合計	10,856,566,891	11,209,679,725	11,696,065,985	16,353,897,041

② 収支計算書

ア 資金収支計算書

収入の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
学生生徒等納付金収入	1,504,493,878	1,798,457,830	2,074,756,435	2,294,064,715
手数料収入	73,219,940	51,049,944	52,377,840	50,545,494
寄付金収入	79,200,660	85,000,000	370,380,000	268,079,441
補助金収入	130,787,329	231,902,885	212,907,900	191,209,990
資産売却収入	0	0	2,368,000	0
付随事業・収益事業収入	77,336,263	59,469,015	46,361,135	40,075,372
受取利息・配当金収入	513,412	106,113	108,474	110,484
雑収入	34,509,856	50,985,646	46,766,326	62,685,210
借入金等収入	0	0	0	2,000,000,000
前受金収入	962,347,000	1,076,050,500	1,200,088,670	1,219,961,916
その他の収入	341,395,453	47,357,483	134,846,955	40,419,679
資金収入調整勘定	▲ 854,698,759	▲ 1,092,760,471	▲ 1,113,996,345	▲ 1,231,848,381
前年度繰越支払資金	2,550,453,469	2,776,746,230	3,074,205,934	3,276,985,343
収入の部合計	4,899,558,501	5,084,365,175	6,101,171,324	8,212,289,263

支出の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人件費支出	1,012,347,576	1,117,091,736	1,207,817,184	1,261,438,122
教育研究経費支出	298,448,099	410,497,540	455,796,671	480,272,088
管理経費支出	251,811,264	252,922,119	265,994,237	331,778,851
借入金等利息支出	41,575,388	38,537,136	28,057,269	44,554,555
借入金等返済支出	103,968,536	103,968,536	81,076,402	103,968,536
施設関係支出	55,771,744	172,169,473	641,671,565	2,206,267,338
設備関係支出	143,521,054	37,102,830	18,187,553	99,414,900
資産運用支出	70,210	60,000	4,492,425	18,240
その他の支出	343,868,822	119,010,412	268,126,765	150,663,758
資金支出調整勘定	▲ 128,570,422	▲ 245,139,127	▲ 147,034,090	▲ 143,090,975
翌年度繰越支払資金	2,776,746,230	2,923,736,608	3,276,985,343	3,677,003,850
支出の部合計	4,899,558,501	4,929,957,263	6,101,171,324	8,212,289,263

イ 事業活動収支計算書

収入の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
教育活動収支 事業活動収入				
学生生徒等納付金	1,504,493,878	1,798,457,830	2,074,756,435	2,294,064,715
手数料	73,219,940	51,049,944	52,377,840	50,545,494
寄付金	85,798,510	85,113,384	165,276,228	73,150,978
経常費等補助金	130,787,329	127,679,885	212,907,900	191,209,990
付随事業収入	62,789,228	55,683,895	43,950,590	40,075,372
雑収入	34,509,856	50,950,138	46,744,885	62,923,570
教育活動収入計	1,891,598,741	2,168,935,076	2,596,013,878	2,711,970,119
教育活動外収支 事業活動収入				
受取利息・配当金	513,412	106,113	108,474	110,484
その他の教育活動外収入	14,547,035	3,785,120	2,410,545	0
教育活動外収入計	15,060,447	3,891,233	2,519,019	110,484
特別収支 事業活動収入				
資産売却差額	0	0	2,368,000	0
その他の特別収入	0	106,634,531	209,124,056	2,463,673,987
特別収入計	0	106,634,531	211,492,056	2,463,673,987

支出の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
教育活動収支 事業活動支出				
人件費	1,021,217,076	1,124,777,620	1,216,953,084	1,271,684,322
教育研究経費	547,023,745	661,929,829	716,639,669	748,301,971
管理経費	278,724,074	280,272,039	294,034,188	371,960,709
徴収不能額	0	0	0	0
教育活動支出計	1,846,964,895	2,066,979,488	2,227,626,941	2,391,947,002
教育活動外収支 事業活動支出				
借入金等利息	41,575,388	38,537,136	28,057,269	44,554,555
その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出計	41,575,388	38,537,136	28,057,269	44,554,555
特別収支 事業活動支出				
資産処分差額	617,112	515,659	3,934,785	2,360,055
その他の特別支出	0	0	0	0
特別支出計	617,112	515,659	3,934,785	2,360,055

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
教育活動収支差額	44,633,846	101,955,588	368,386,937	320,023,117
教育活動外収支差額	▲ 26,514,941	▲ 34,645,903	▲ 25,538,250	▲ 44,444,071
経常費差額	18,118,905	67,309,685	342,848,687	275,579,046
特別収支差額	▲ 617,112	106,118,872	207,557,271	2,461,313,932

(予備費)	0	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額	17,501,793	173,428,557	550,405,958	2,736,892,978
基本金組入額合計	▲ 467,271,470	▲ 155,212,131	▲ 832,308,395	▲ 2,621,031,519
当年度収支差額	▲ 449,769,677	18,216,426	▲ 281,902,437	115,861,459
前年度繰越収支差額	111,033,306	▲ 335,672,230	▲ 317,455,804	▲ 599,358,241
基本金取崩額合計	3,064,141	0	0	0
翌年度繰越収支差額	▲ 335,672,230	▲ 317,455,804	▲ 599,358,241	▲ 483,496,782

(参考)

事業活動収入計	1,906,659,188	2,279,460,840	2,810,024,953	5,175,754,590
事業活動支出計	1,889,157,395	2,106,032,283	2,259,618,995	2,438,861,612

財務比率等を活用している財務分析をしている資料

分類	区分		平成27年度 (H28. 3. 31)	平成28年度 (H29. 3. 31)	平成29年度 (H30. 3. 31)	平成30年度 (H31. 3. 31)
	比率	算式 (×100%)				
財務状況	負債率	$\frac{\text{総負債} - \text{前受金}}{\text{総資産}}$	17.09%	17.15%	14.82%	22.23%
	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総資産}}$	74.04%	73.26%	74.92%	70.31%
	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	29.10%	31.83%	31.50%	24.93%
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	264.93%	244.34%	247.28%	265.61%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	79.65%	78.38%	78.50%	82.84%
	前受金構成比率	$\frac{\text{前受金}}{\text{現金預金}}$	34.6%	35.0%	36.62%	33.18%
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	288.5%	285.6%	273.06%	301.40%
	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	-3.0%	-2.8%	-5.12%	-2.96%
経営状況	人件費	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	53.56%	51.77%	46.83%	46.89%
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	67.88%	62.54%	58.66%	55.43%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	28.69%	30.46%	27.58%	27.59%
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	14.62%	12.90%	11.32%	13.71%
	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	2.18%	1.77%	1.08%	1.64%
	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	0.92%	7.61%	19.59%	52.88%
	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入} - \text{基本金組入額}}$	79.58%	86.50%	62.04%	31.28%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	78.91%	82.77%	79.84%	84.59%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	4.50%	3.73%	5.88%	1.41%
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	6.86%	5.60%	7.58%	3.69%
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	-24.51%	-6.81%	-29.62%	-50.64%
	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	62.54%	69.22%	77.37%	83.97%
	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	0.95%	3.10%	13.19%	10.16%
	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	2.36%	4.70%	14.19%	11.80%

財 産 目 録

平成 31 年 3 月 31 日現在

I 資産総額		金	16,353,897,041 円
内	1 基本財産	金	12,263,407,572 円
	2 運用財産	金	4,090,489,469 円
	[収益事業用財産	金	90,367,491 円]
II 負債総額		金	4,854,395,178 円
	[収益事業用負債	金	375,580,137 円]
III 正味財産		金	11,499,501,863 円

(単位：千円)

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	12,263,407
土地	6,087,075
建物	5,512,690
構築物	155,173
教具・校具・備品	351,166
その他の基本財産	157,301
2 運用財産	4,090,489
現金預金	3,677,003
その他の運用財産	413,485
(3 収益事業財産)	90,367
資産総額	16,353,897
負債額	
1 固定負債	3,319,164
2 流動負債	1,535,230
(3 収益事業負債)	375,580
負債総額	4,854,395
正味財産	11,499,501

監 査 報 告 書

2019年 5月 20日

学校法人 湘南ふれあい学園
理事会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園
監 事 金 井 清 吉
監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 8 条第 2 項に基づいて同学園の平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）を含め、学校法人湘南ふれあい学園の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決算書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手段を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

監 査 報 告 書

2019年 5月 20日

学校法人 湘南ふれあい学園
評議員会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園
監 事 金 井 清 吉
監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第8条第2項に基づいて同学園の平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）を含め、学校法人湘南ふれあい学園の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決算書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手段を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上